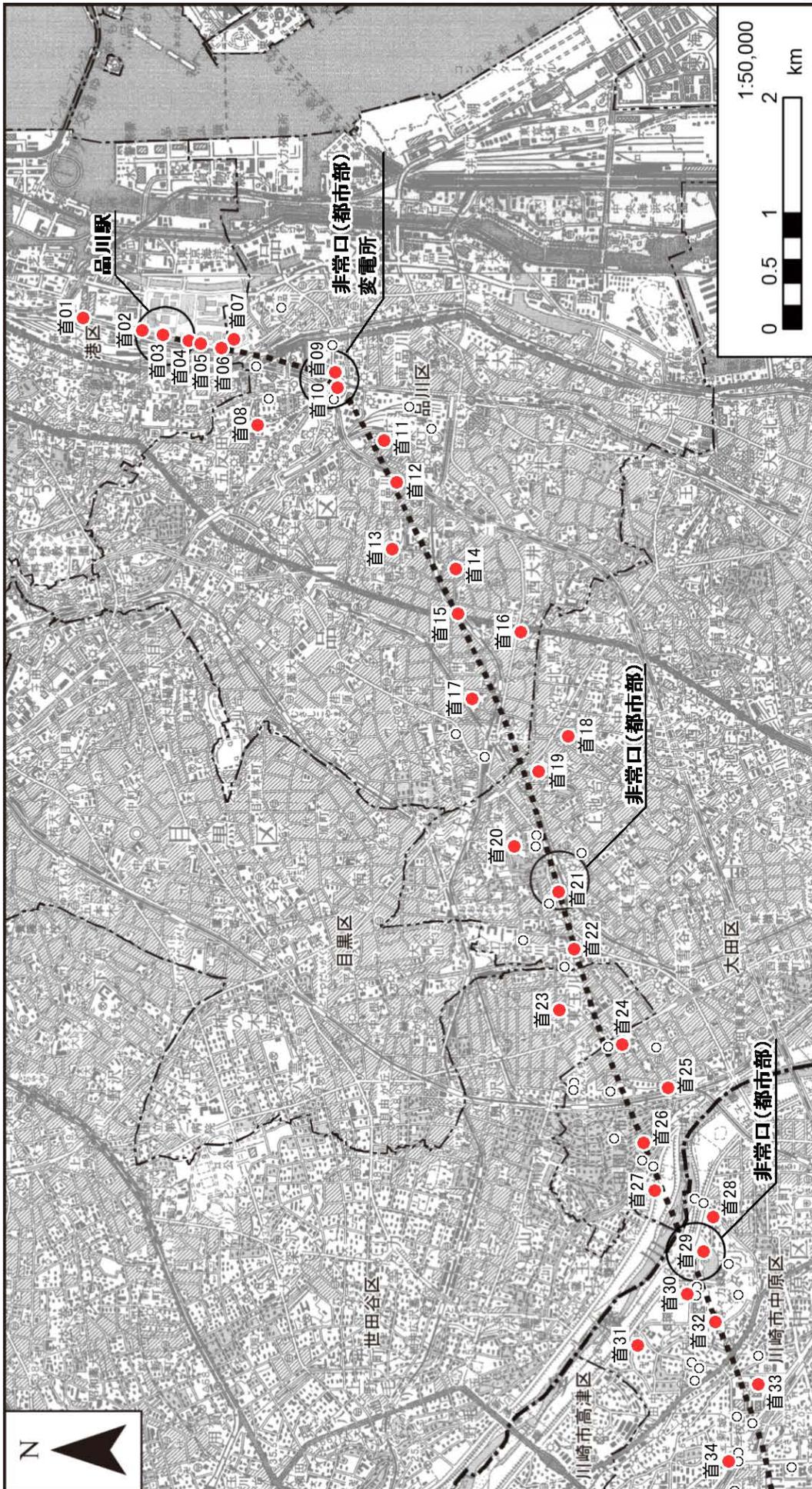


地下水（地下水位・水圧低下による取水障害、地盤沈下）に係る事業特性・地域特性

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
<p>本事業の事業特性は以下のとおりである。</p> <p>1. 起点及び終点 起点 東京都港区 終点 愛知県名古屋市 主要な経過地 甲府市附近、赤石山脈（南アルプス）中南部</p> <p>2. 走行方式 超電導磁気浮上方式</p> <p>3. 最高設計速度 505 キロメートル／時</p> <p>4. 路線計画 起点の東京都から名古屋市まで、超電導リニアの超高速性を踏まえ、できる限り短い距離で結ぶことを基本とする。 首都圏及び中部圏の都市部では、大深度地下を使用できる地域において、できる限り大深度地下を使用する。</p> <p>5. 設備計画 首都圏及び中部圏の都市部は主に地下式（シールドトンネル）とする。またトンネル内の換気及び異常時の避難等の観点から、換気設備を設置した非常口を概ね 5km 間隔で設置する。</p> <p>6. 鉄道施設（換気施設） トンネル内を換気するため、鉄道施設（換気施設）の設置を計画している。</p> <p>7. 工事概要 工事内容は今後具体化することとなるが、現段階においては概ね以下の通りである。 ①トンネル部 都市部の大深度トンネル部では、主にシールド工法を採用する。 ②非常口 都市部の非常口については、地中連続壁又はケーソン工法を、地表の状況及び深度に応じて選定したうえで掘り進めていく。工事の実施にあたっては、非常口の工事箇所工事施工ヤードを設置する。また、既存の主要な幹線道路等を資材や機材の運搬道路として利用する。</p>	<p>本事業区域及びその周囲の地域特性は以下のとおりである。</p> <p>1. 自然的条件 ①水象の状況 （首都圏） 調査対象地域には公園等において利用されている湧水が点在する。 （中部圏） 調査対象地域には親水広場等において利用されている湧水が存在する。 ②地下水の状況 （首都圏） 調査対象地域の地下水は、主に東京礫層、上総層群の砂層に帯水している。本事業区域周辺における被圧地下水位は東京都区部で T.P. -5.27m～+19.71m、川崎市で T.P. +6.04m～+57.65m、町田市で T.P. +53.25m～+141.65m、相模原市で T.P. +112.13m～+117.77m となっており、西高東低の水位分布を示している。 （中部圏） 調査対象地域の地下水は、春日井市においては主に東海層群矢田川累層、名古屋市においては主に海部弥富累層第二礫層・第三礫層に帯水している。本事業区域周辺における被圧地下水位は春日井市で T.P. +6.35m～+190.14m、名古屋市で T.P. -1.96m～+3.08m となっており、北高南低の水位分布を示している。 ③地形の状況 （首都圏） 東京都区部においては武蔵野台地が中小河川によりいくつかに分けられた台地部、多摩川等により形成された沖積平野である低地が見られる。また、川崎市及び町田市は概ね多摩丘陵の南方に位置し、丘陵地のほか鶴見川等の河川によって形成された谷地低地が分布している。 （中部圏） 春日井市北部に丘陵地や台地が分布する一方、内津川付近には扇状地性低地が、庄内川、矢田川付近には三角州性低地が分布している。</p>

地下水（地下水位・水圧低下による取水障害、地盤沈下）に係る事業特性・地域特性

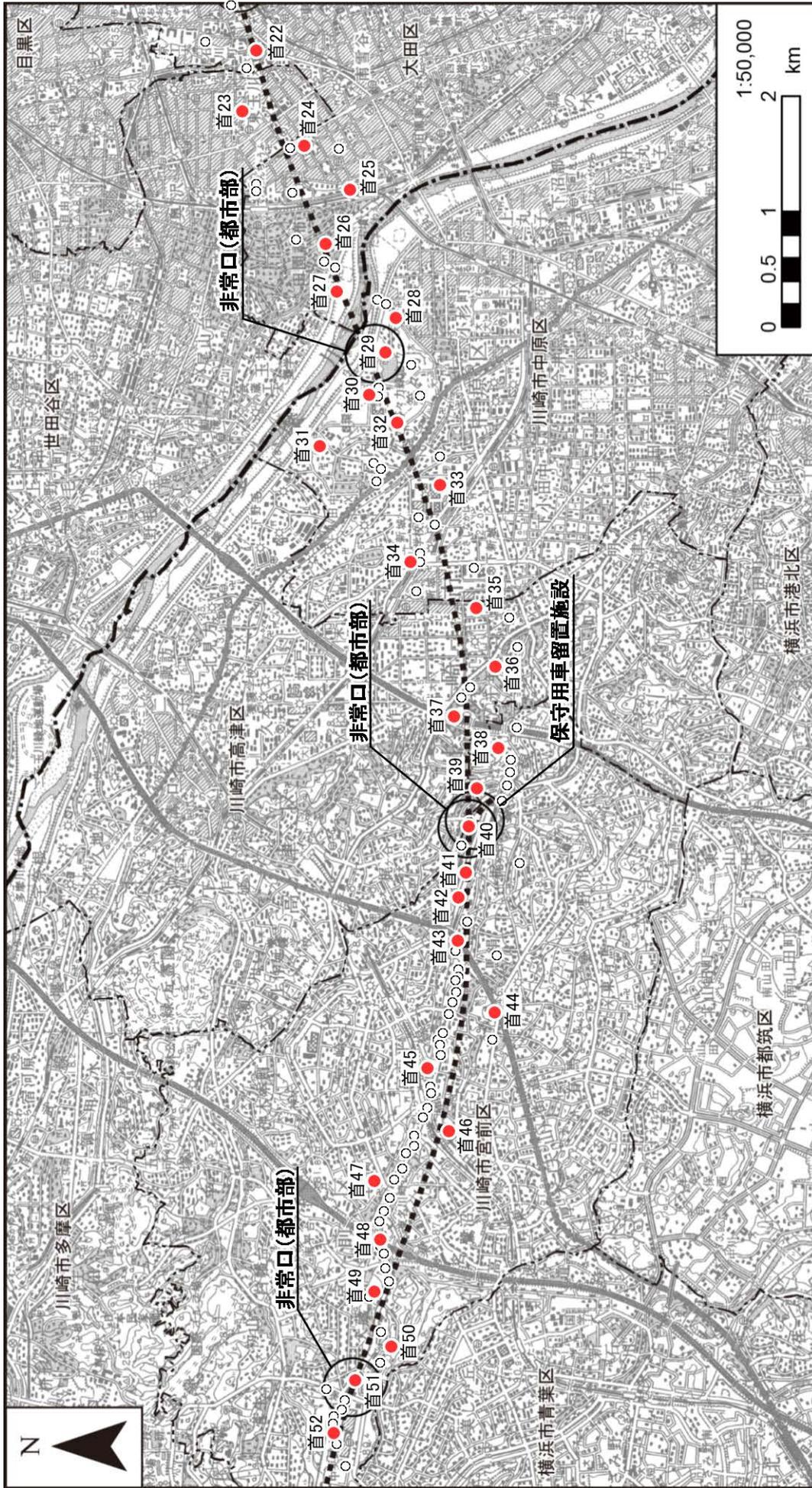
当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
<p>本事業の建設に伴う掘削工事、トンネル工事の実施により地下水流動等の変化を生じることが考えられる。</p>	<p>④地質の状況 （首都圏） 東京都区部においてはトンネルを計画する上総層群とこれを覆う東京礫層、東京層、沖積層等から成っている。また、川崎市及び町田市においては上総層群とこれを覆う段丘礫層及び関東ローム層から成っている。 （中部圏） 第三紀に生成されトンネルの大半を計画する東海層群と、これを覆う海部・弥富累層、熱田層等から成っている。</p> <p>⑤重要な地形及び地質の状況 （首都圏） 町田市において東京都が指定する函師小野路歴史環境保全地域が分布しているが、この地域はトンネルで通過し、地形を改変することはない。 （中部圏） 調査対象地域には重要な地形及び地質は存在しない。</p> <p>2. 社会的状況 ①土地利用の状況 （首都圏） 調査対象地域は「都市計画法」に基づく用途地域の指定がなされており、主に住居地域となっている。その他に公共施設、商業施設、工場、農地等が分布している。 （中部圏） 調査対象地域は春日井市の一部を除いて「都市計画法」に基づく用途地域の指定がなされており、主に住居地域となっている。その他に公共施設、商業施設、工場、農地等が分布している。</p> <p>②地下水利用の状況 （首都圏） 調査対象地域における地下水利用について、東京都区部においては指定作業場での利用が、川崎市においては水道用や工業用としての利用が、町田市においては上水道等としての利用が多くなっている。 （中部圏） 調査対象地域における地下水利用については、水道用としての利用が多くなっている。また、調査対象地域には、水道用水源井戸等が分布している。</p>



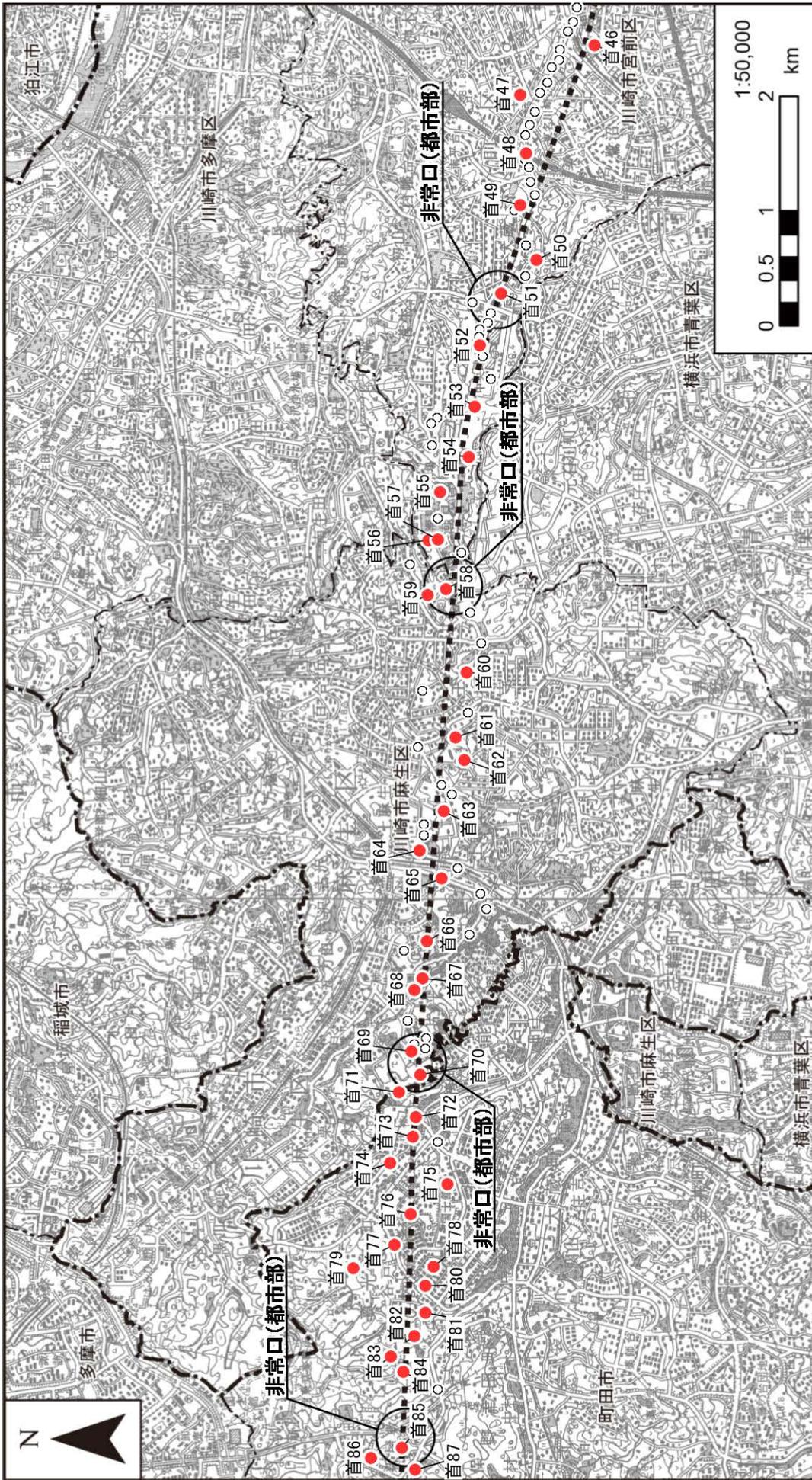
凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 都県境
- 市区町村境
- ボーリング実施箇所 (JR)
- ボーリング実施箇所 (参考)

ボーリング調査実施箇所 (1)



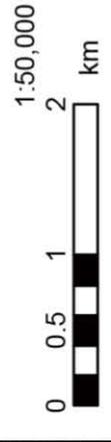
- 凡例
- 計画路線(トンネル部)
 - 都県境
 - 市区町村境
 - ボーリング実施箇所 (JR)
 - ボーリング実施箇所 (参考)
- ボーリング調査実施箇所 (2)

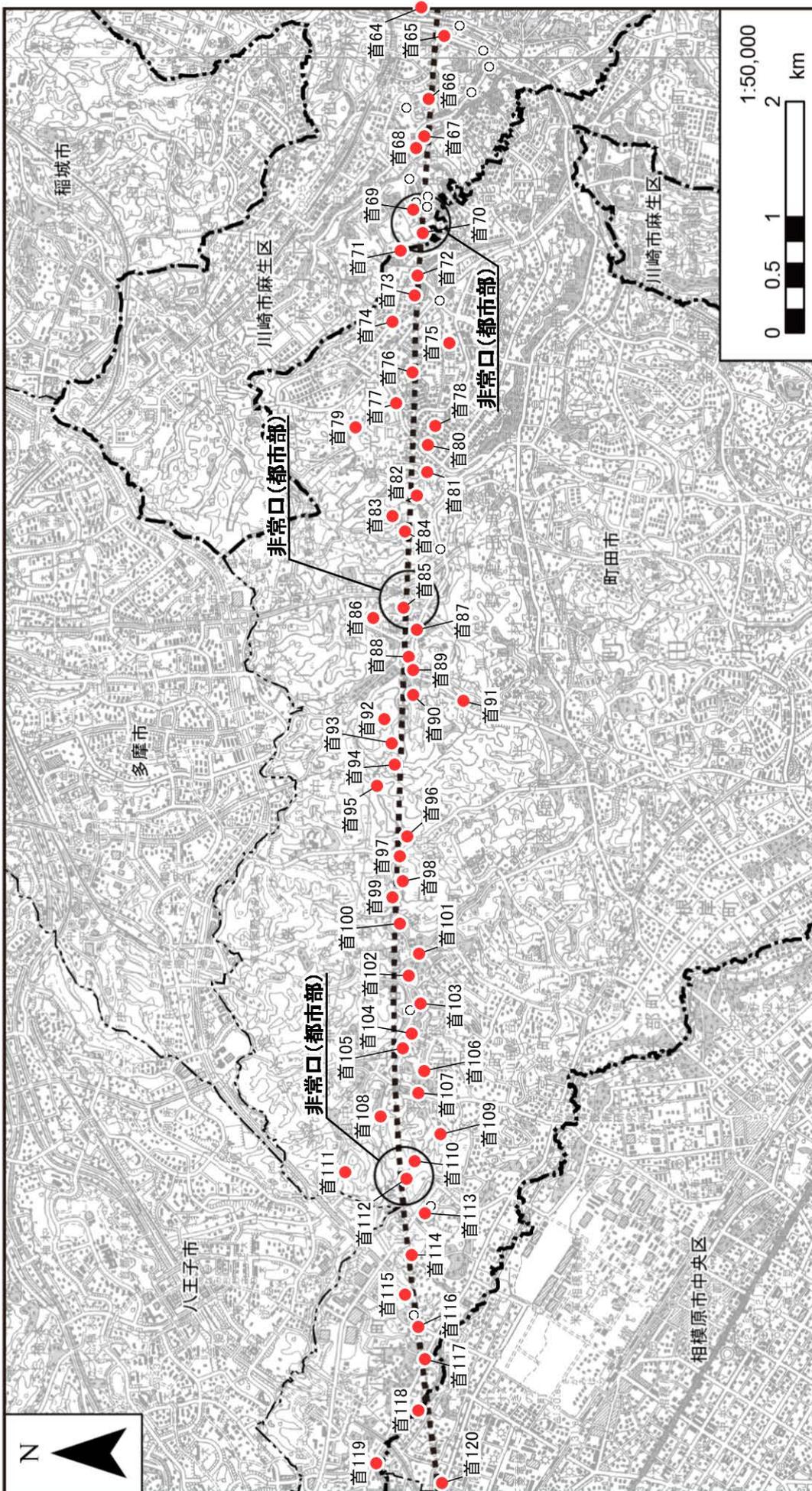


凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 都県境
- 市区町村境
- ボーリング実施箇所 (JR)
- ボーリング実施箇所 (参考)

ボーリング調査実施箇所 (3)





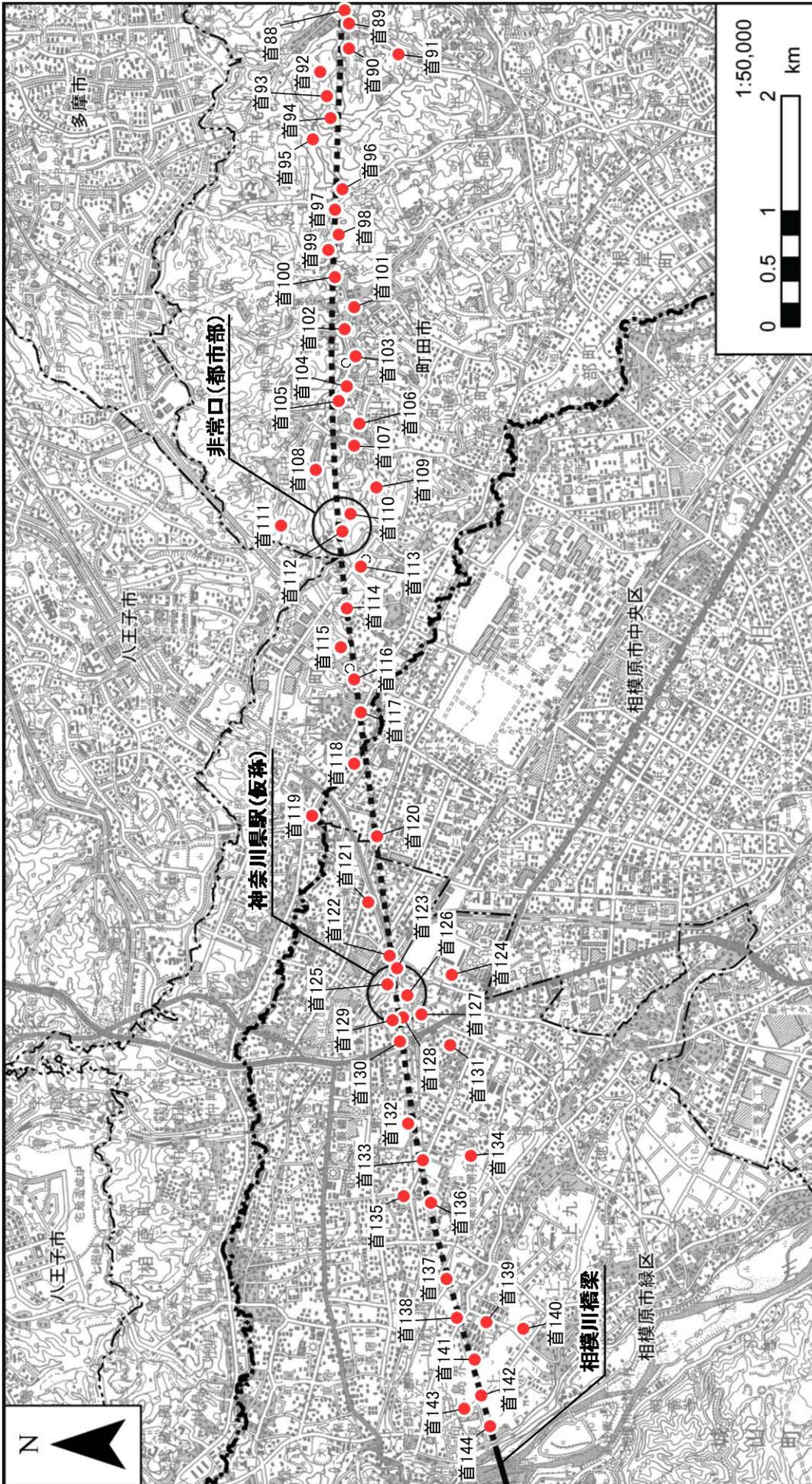
凡例

- ボーリング実施箇所 (JR)
- ボーリング実施箇所 (参考)
- 計画路線(トンネル部)
- 都県境
- 市区町村境

ボーリング調査実施箇所 (4)

1:50,000

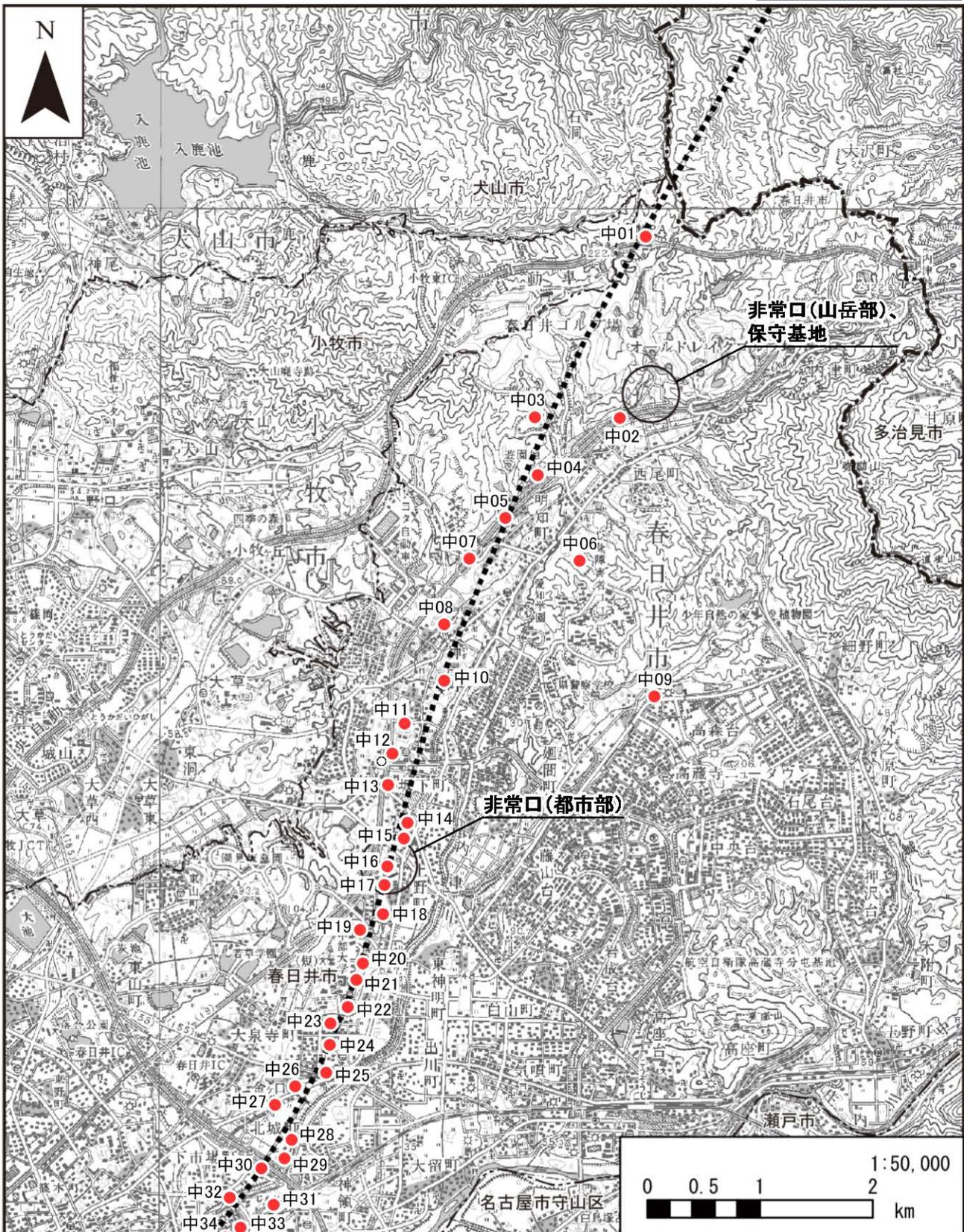




凡例

- ボーリング実施箇所 (JR)
- ボーリング実施箇所 (参考)
- 計画路線(トンネル部)
- 都県境
- 市区町村境

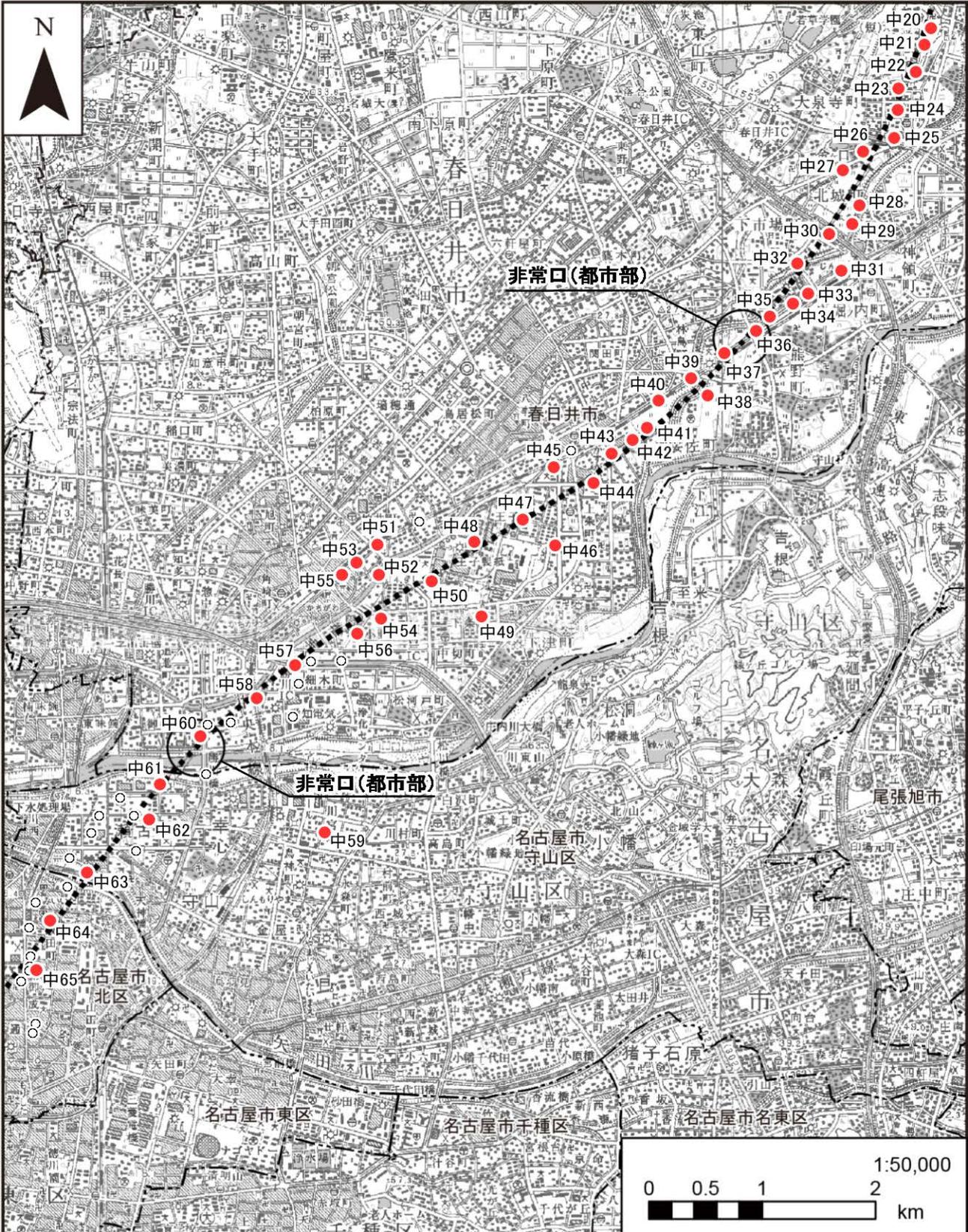
ボーリング調査実施箇所 (5)



凡例

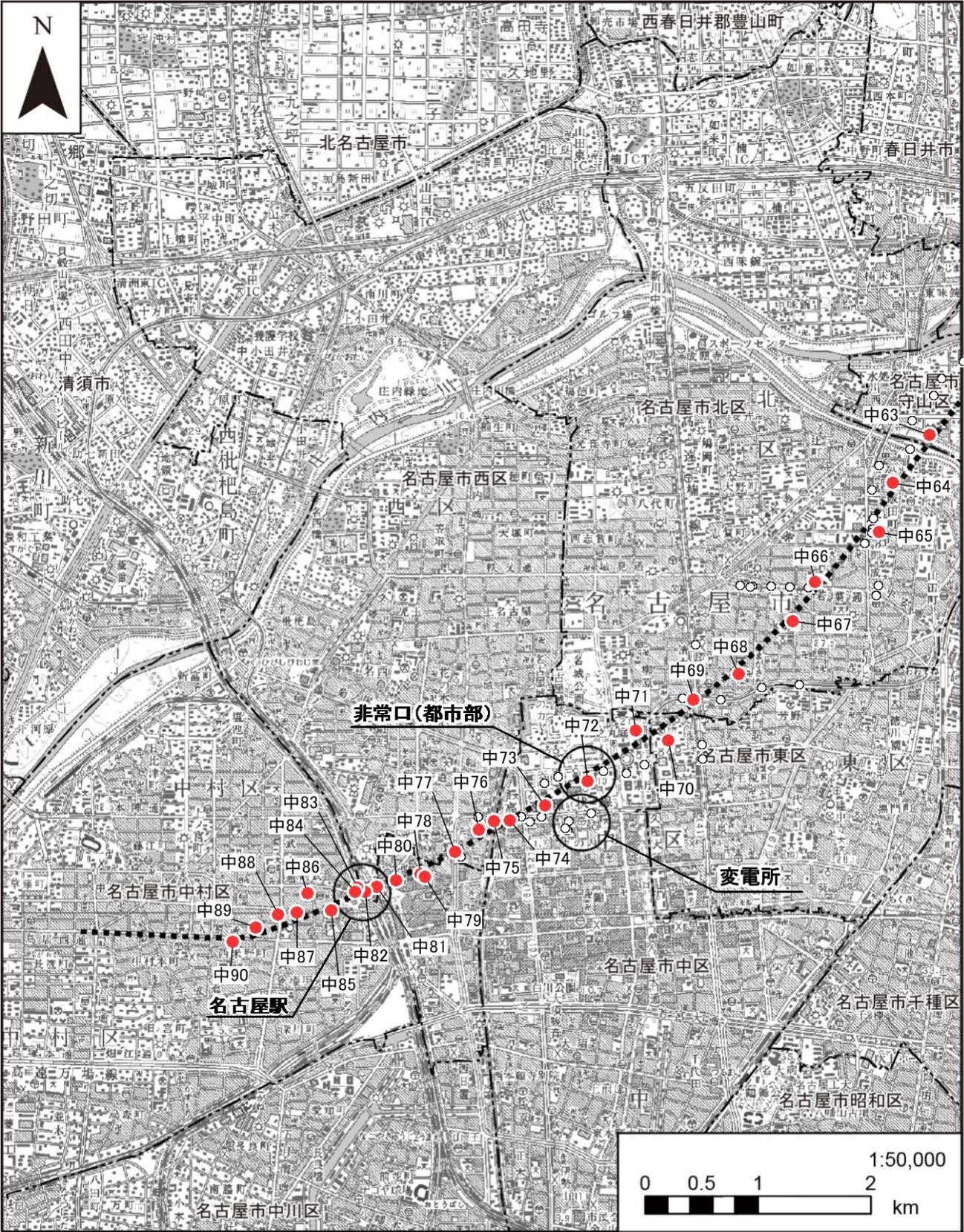
- 計画路線(トンネル部)
- 県境
- 市区町村境
- ボーリング実施箇所 (JR)
- ボーリング実施箇所 (参考)

ボーリング調査実施箇所 (6)



- 凡例**
- 計画路線(トンネル部)
 - 県境
 - 市区町村境
 - ボーリング実施箇所 (JR)
 - ボーリング実施箇所 (参考)

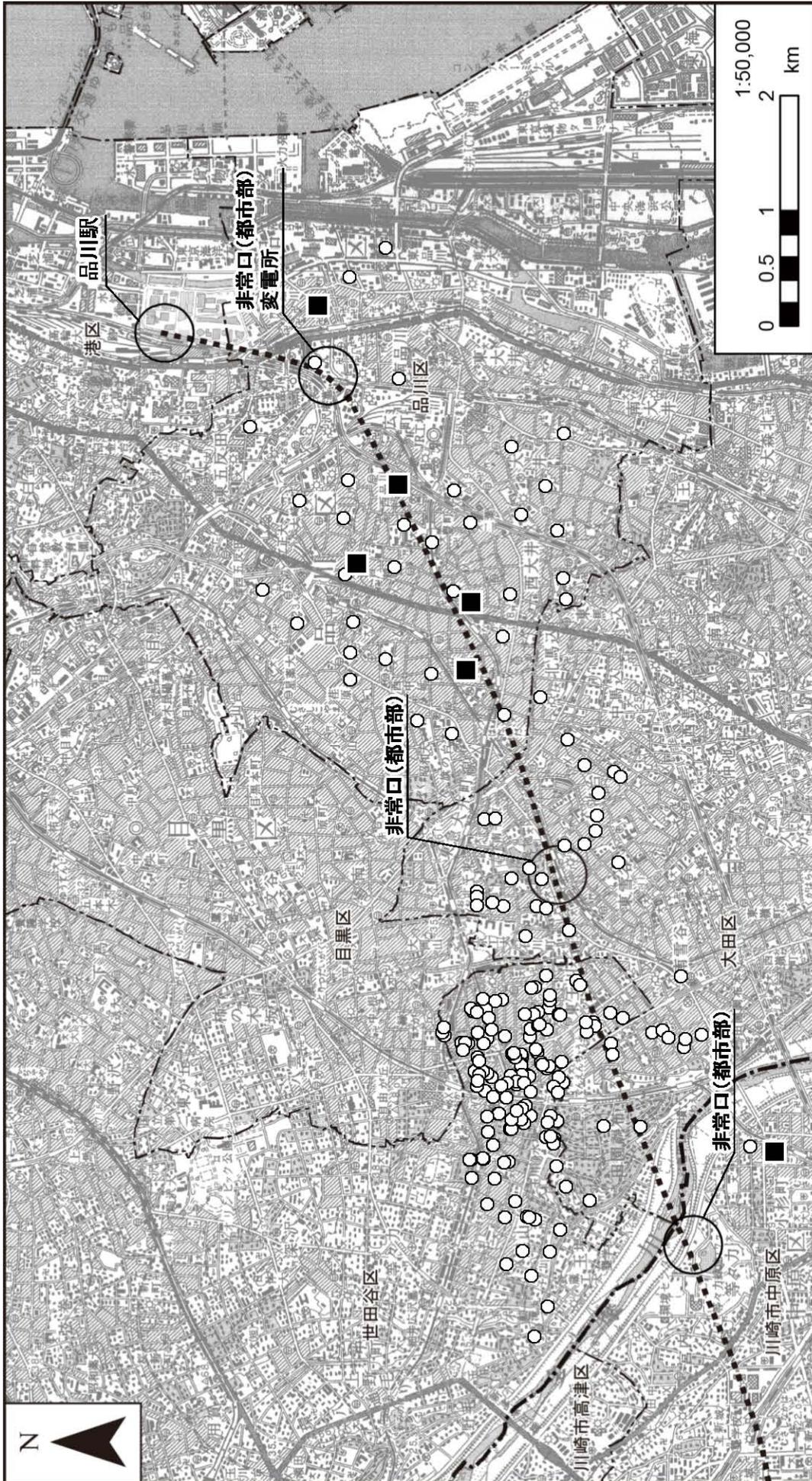
ボーリング調査実施箇所 (7)



凡例

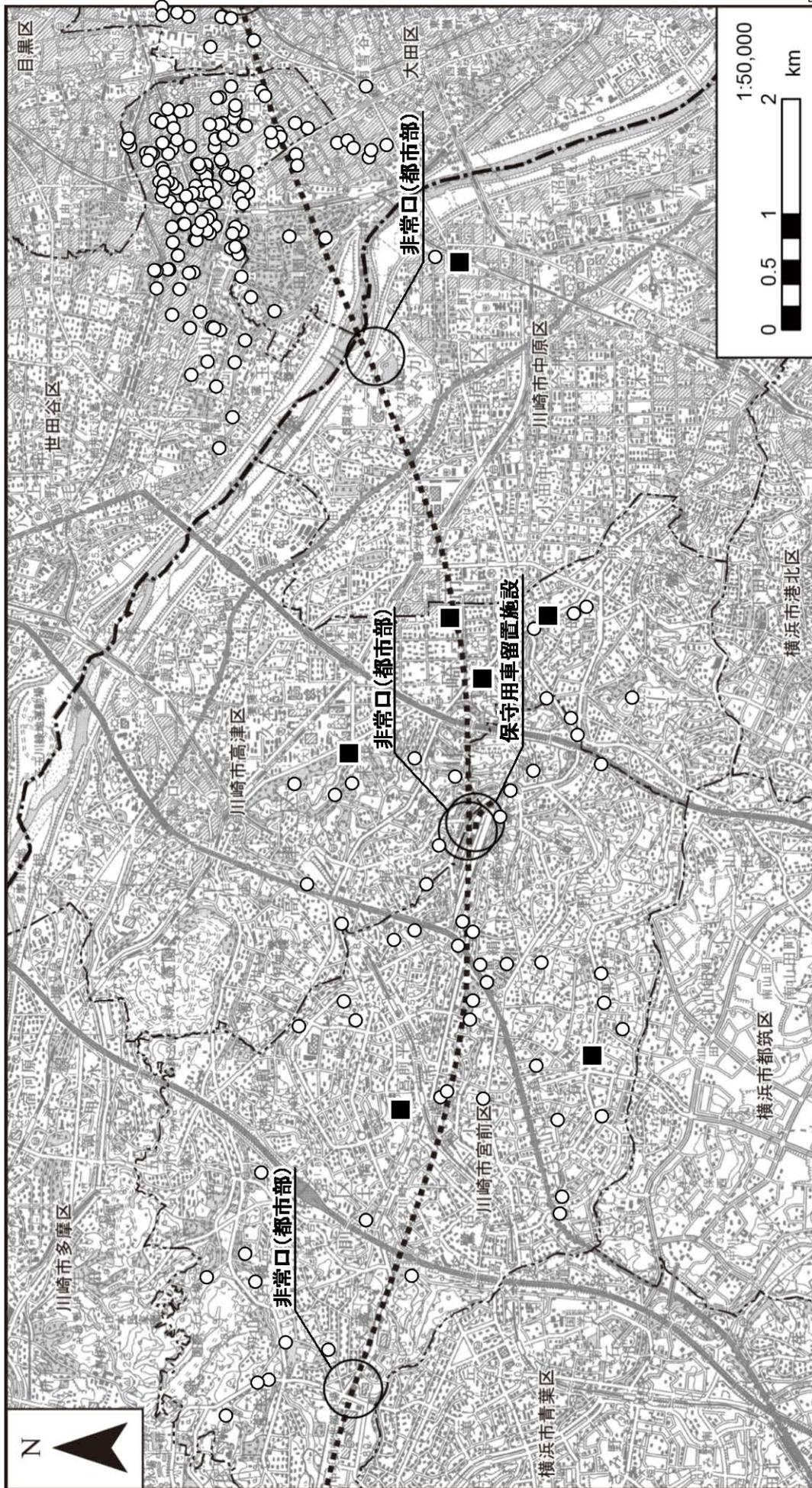
- 計画路線(トンネル部)
- 県境
- 市区町村境
- ボーリング実施箇所 (JR)
- ボーリング実施箇所 (参考)

ボーリング調査実施箇所 (8)



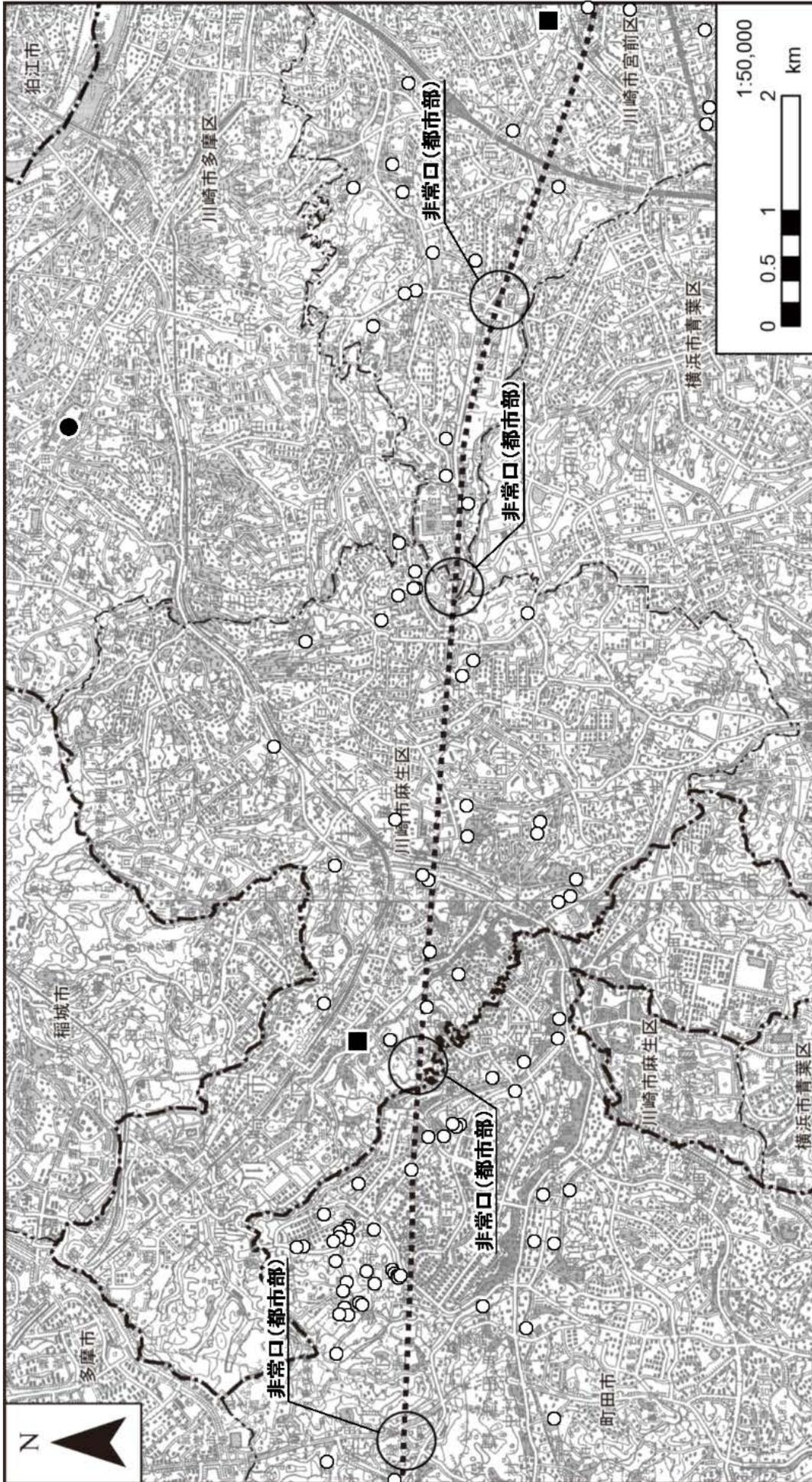
地下水の利用施設の位置 (1)

- 凡例
- 飲用井戸 (文献)
 - 温泉 (文献)
 - 防災用井戸 (文献)
 - 計画路線 (トンネル部)
 - 都県境
 - 市区町村境



地下水の利用施設の位置 (2)

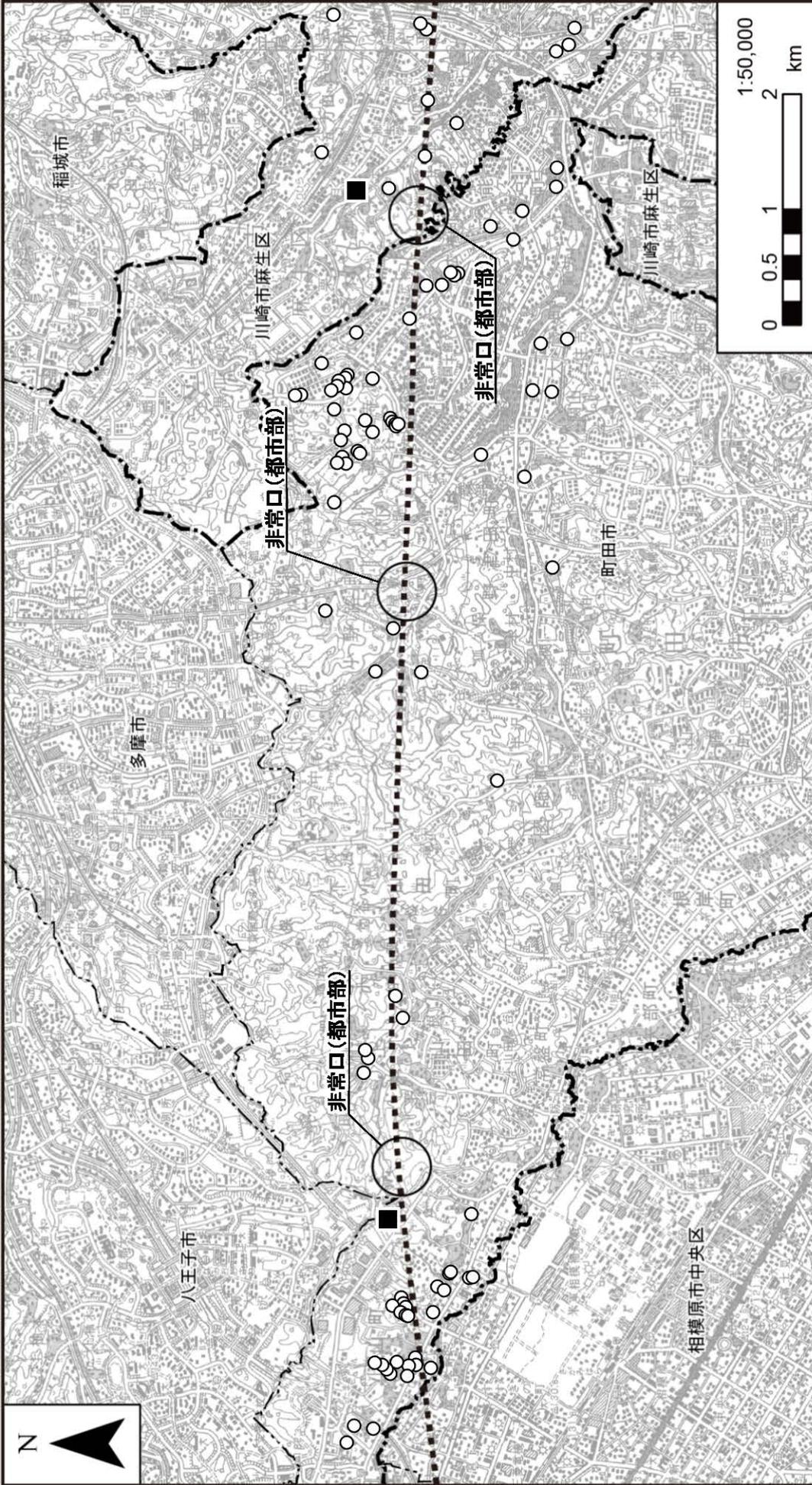
- 凡例
- 計画路線(トンネル部)
 - 都県境
 - 市区町村境
 - 飲用井戸 (文献)
 - 温泉 (文献)
 - 防災用井戸 (文献)



凡例

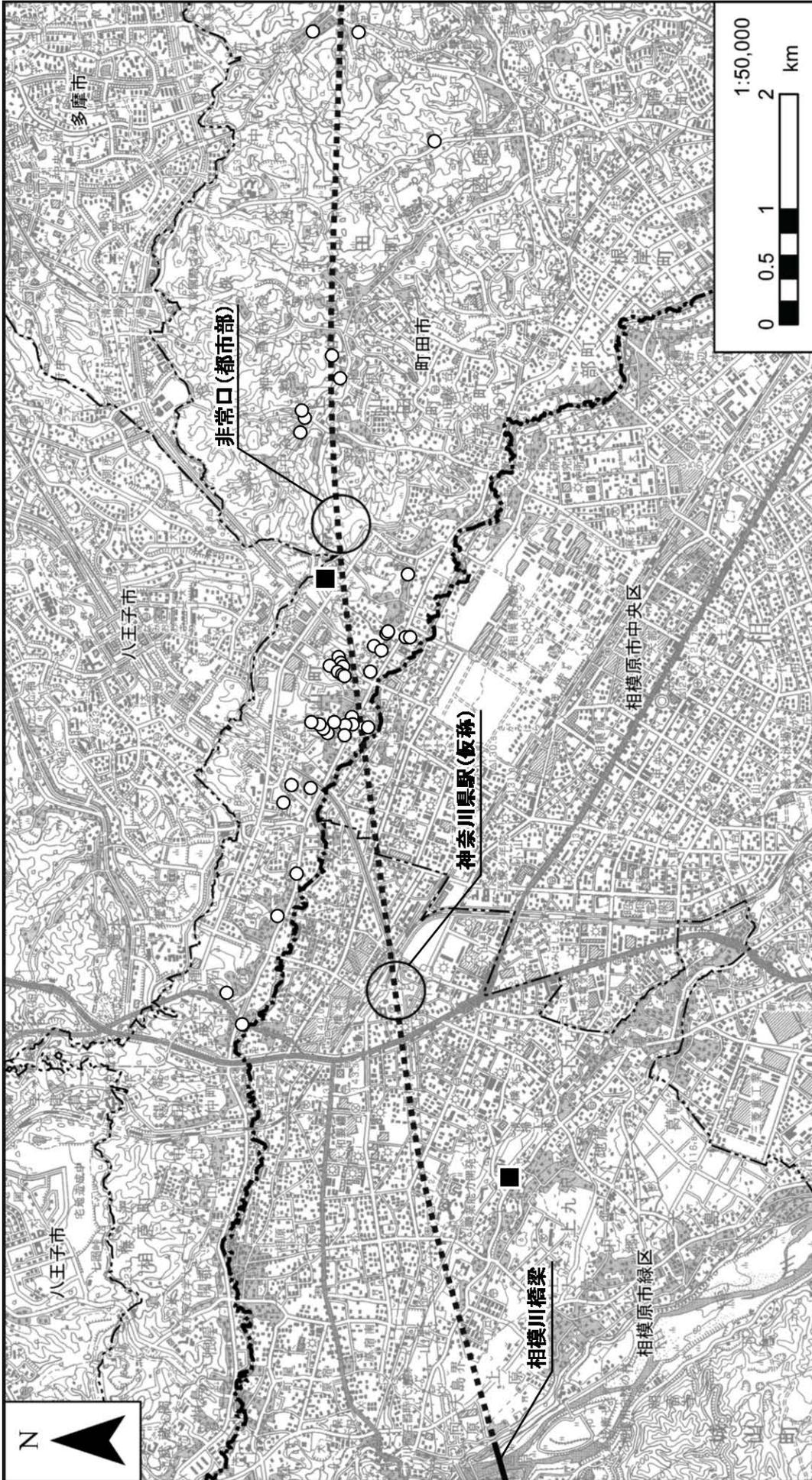
- 飲用井戸 (文献)
- 温泉 (文献)
- 防災用井戸 (文献)
- 計画路線(トンネル部)
- 都県境
- 市区町村境

地下水の利用施設の位置 (3)



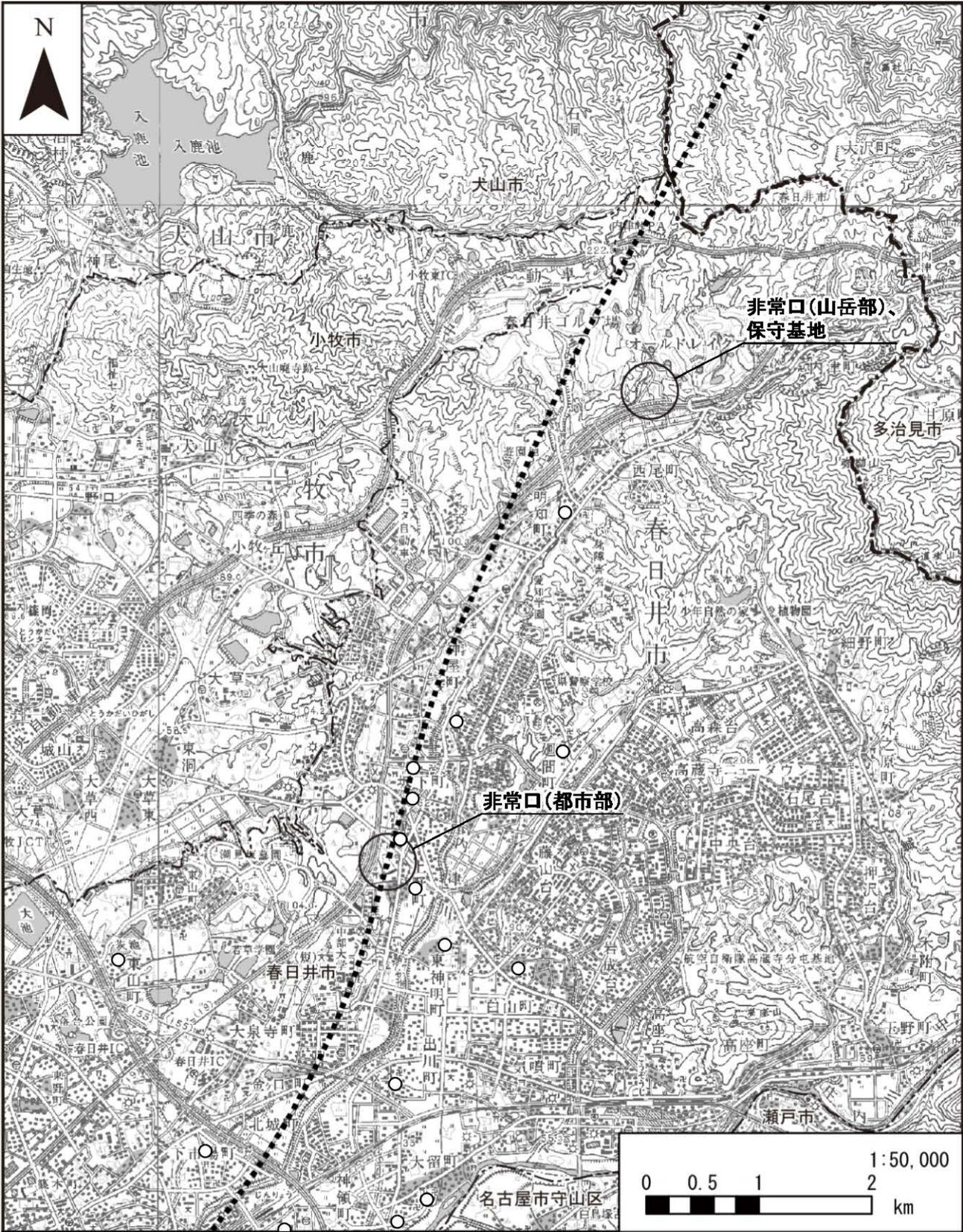
地下水の利用施設の位置 (4)

- 凡例
- 計画路線(トンネル部)
 - 都県境
 - 市区町村境
 - 飲用井戸(文献)
 - 温泉(文献)
 - 防災用井戸(文献)



地下水の利用施設の位置 (5)

- 凡例
- 飲用井戸 (文献)
 - 温泉 (文献)
 - 防災用井戸 (文献)
 - 計画路線 (トンネル部)
 - 都県境
 - 市区町村境



凡例

地下水の利用施設の位置 (6)

- 計画路線(トンネル部)
- 県境
- 市区町村境

○ 防災用井戸 (文献)

※ 飲用井戸及び温泉については、文献に位置が示されていないため、図示していない。

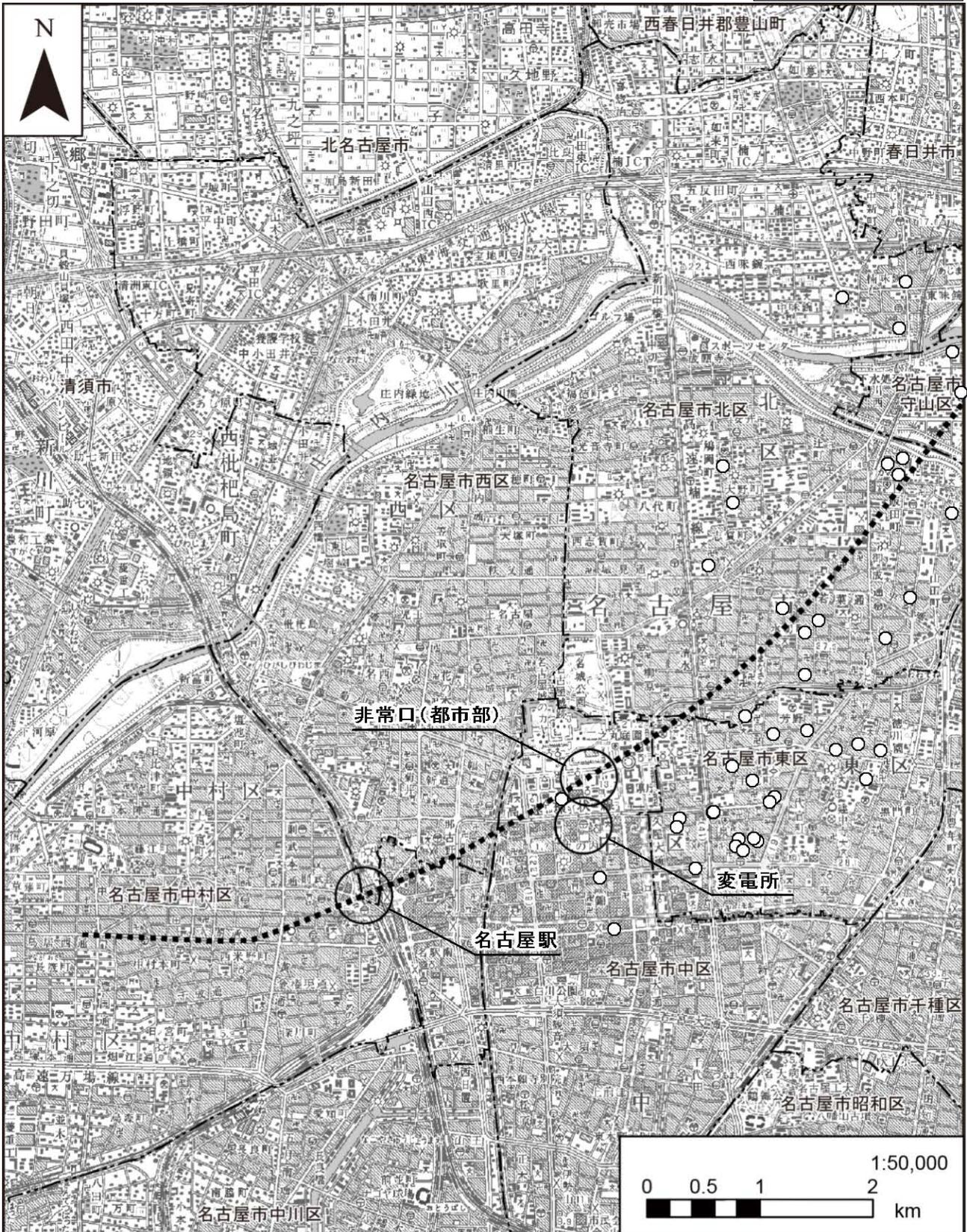


凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 県境
- 市区町村境
- 防災用井戸 (文献)

※ 飲用井戸及び温泉については、文献に位置が示されていないため、図示していない。

地下水の利用施設の位置 (7)

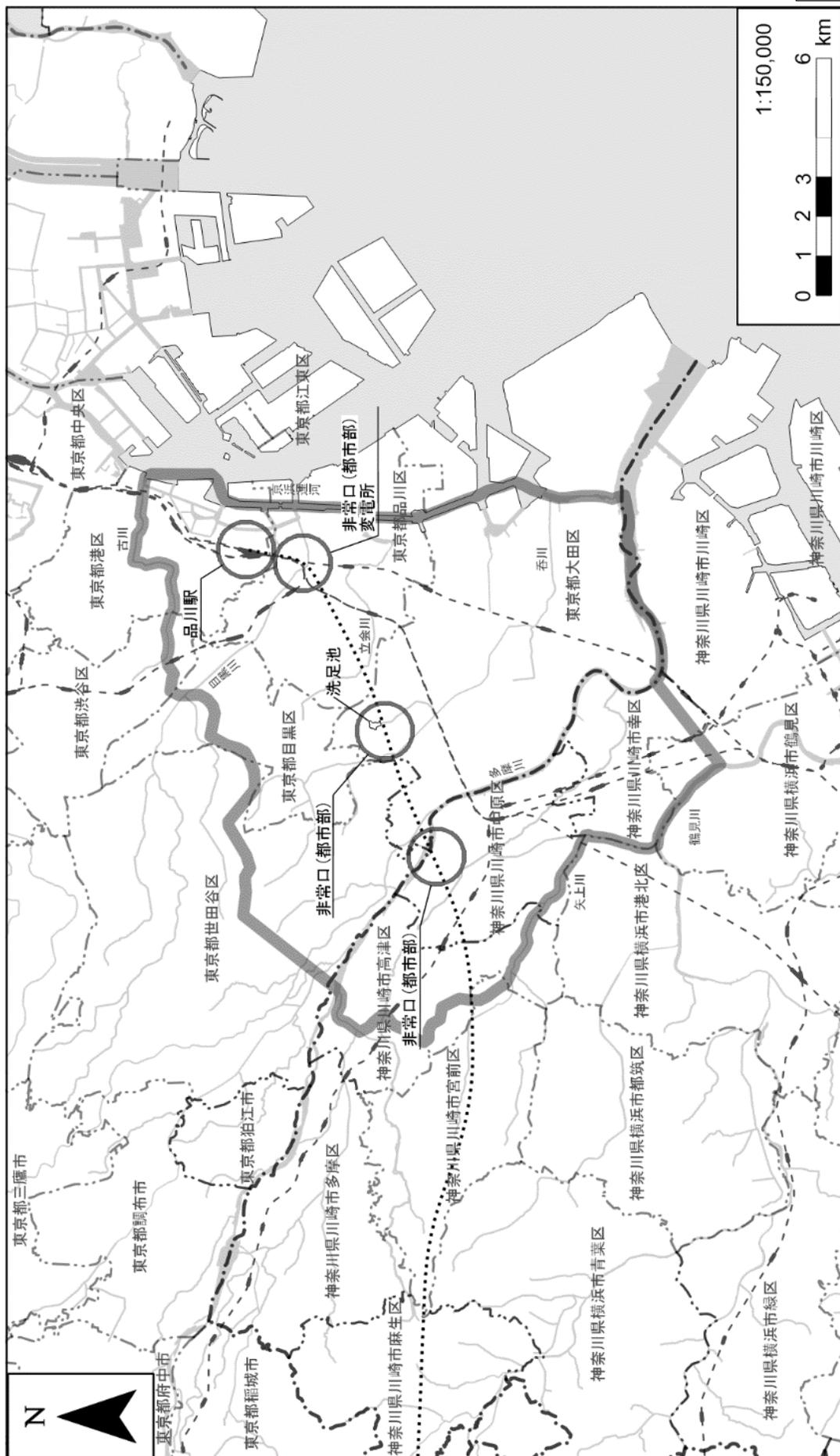


凡例

- 計画路線(トンネル部)
- .-.- 県境
- 市区町村境

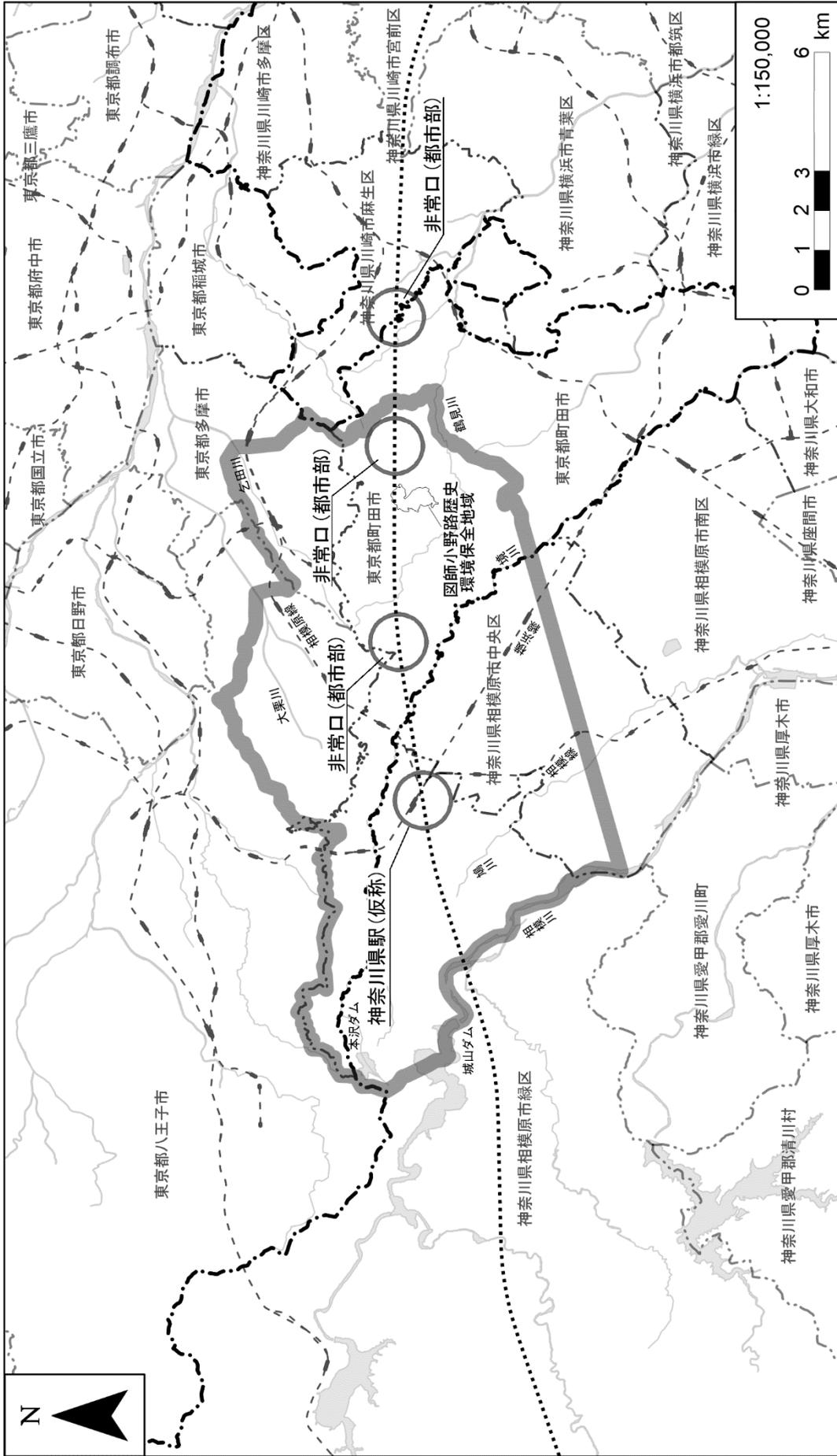
- 防災用井戸 (文献)
- ※ 飲用井戸及び温泉については、文献に位置が示されていないため、図示していない。

地下水の利用施設の位置 (8)



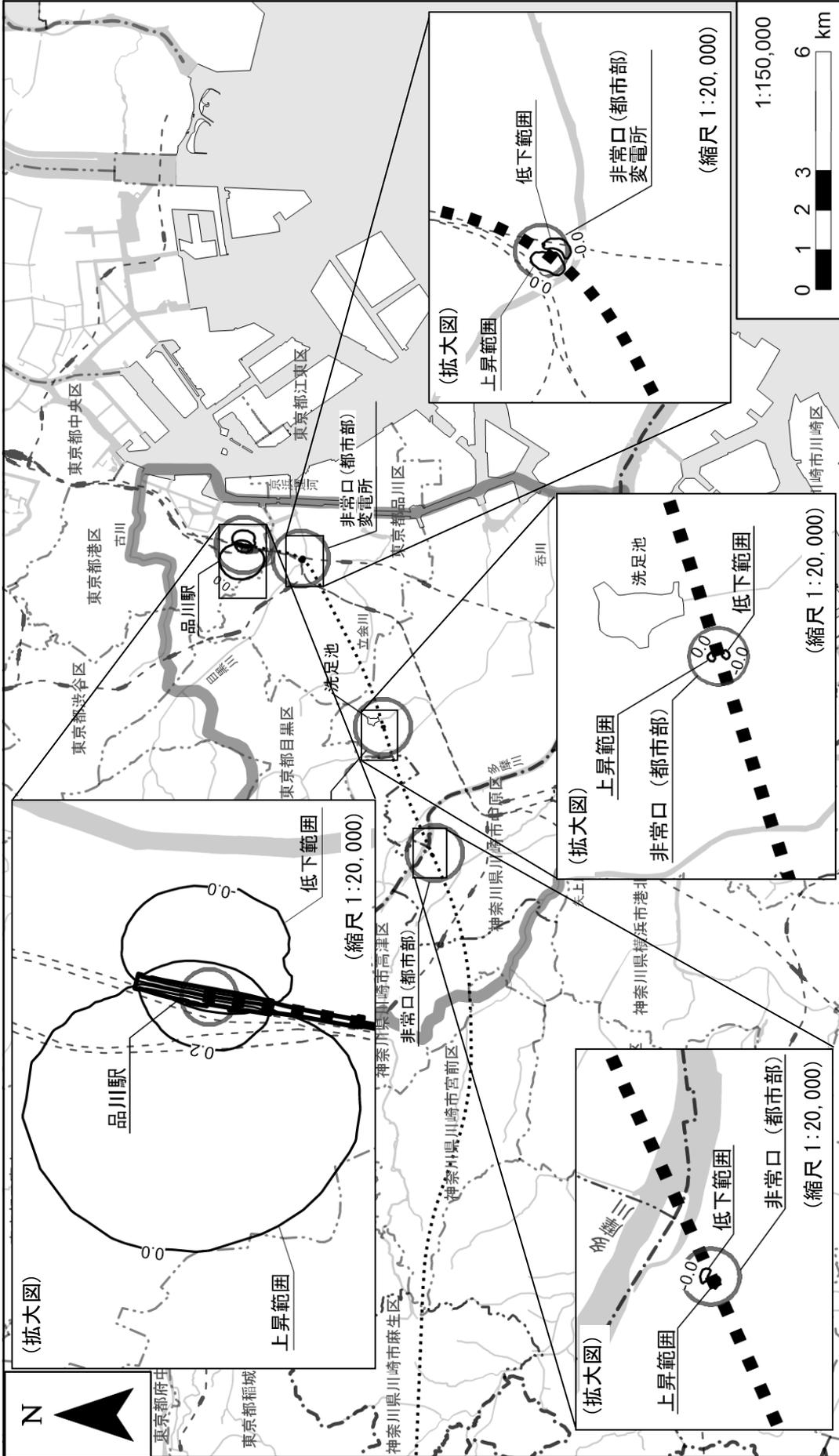
三次元浸透流解析の解析範囲 (1)

- 凡例
- 計画路線(トンネル部)
 - 都県境
 - 市区町村境
 - 解析範囲



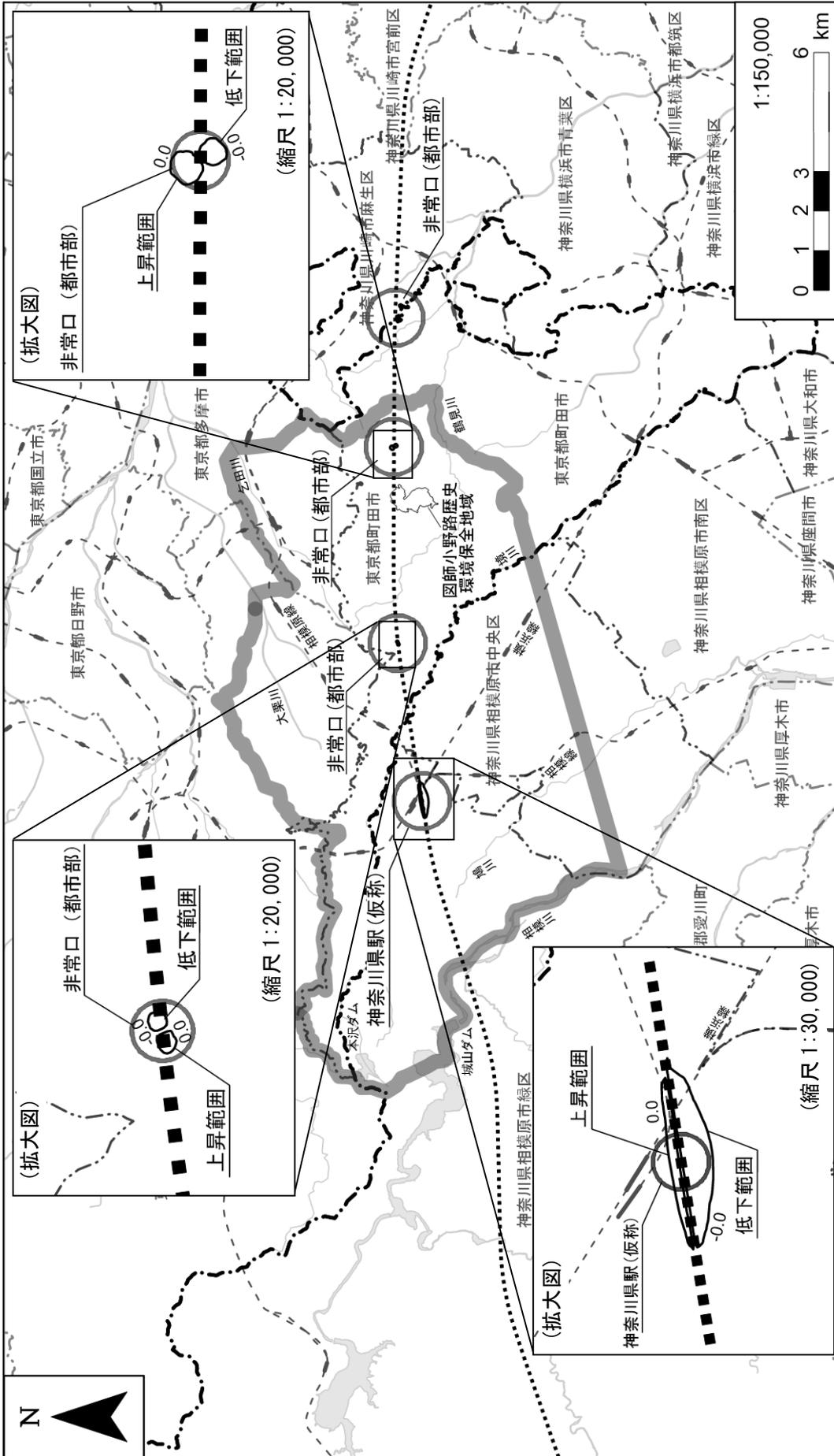
三次元浸透流解析の解析範囲 (2)

- 凡例
- 計画路線(トンネル部)
 - 都県境
 - 市区町村境
 - 解析範囲



地下水の水位への影響予測結果 (浅層) (1)

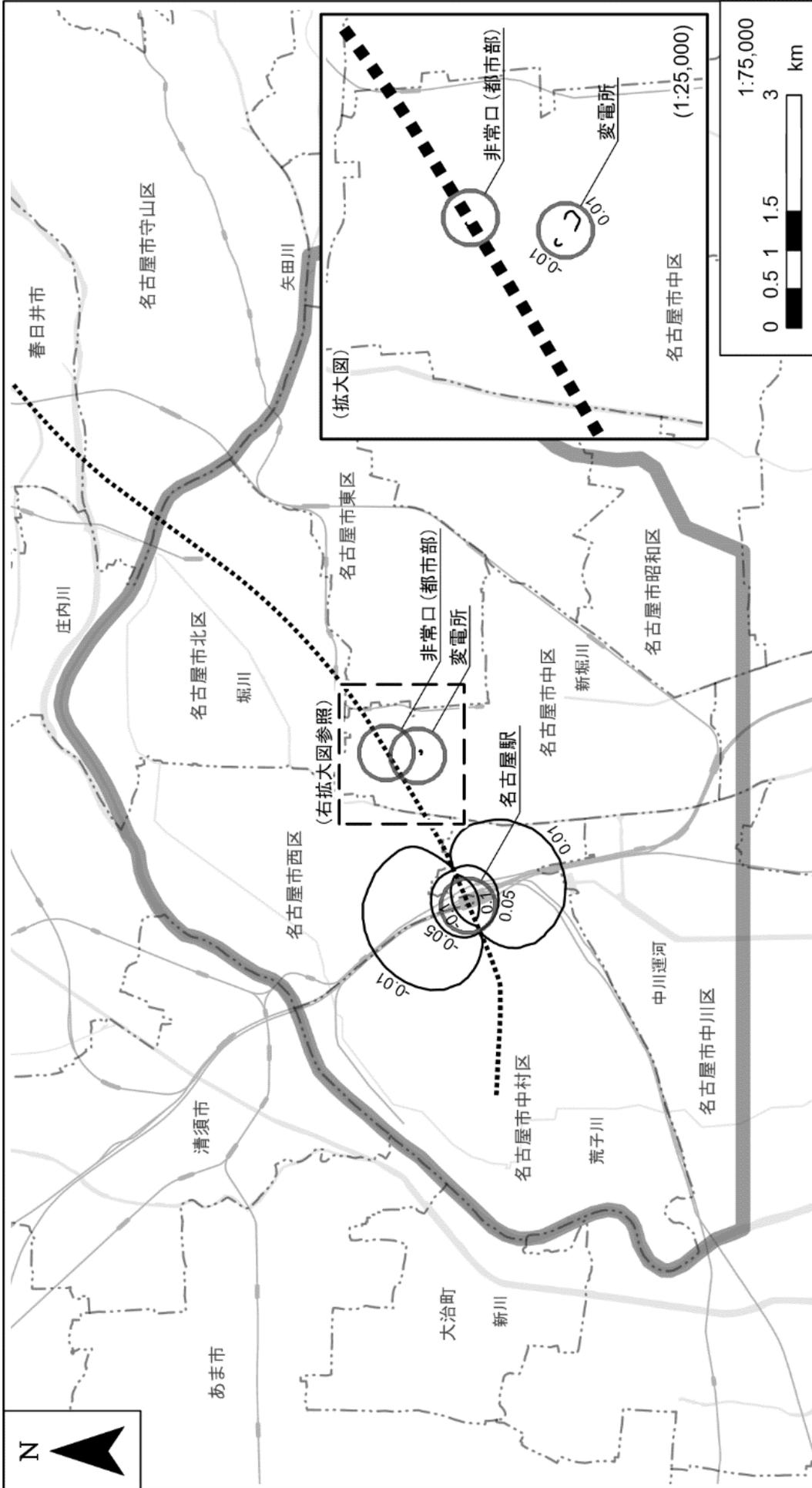
- 凡例
- 計画路線(トンネル部)
 - 都県境
 - - - 市区町村境
 - 解析範囲
 - 地下水位差等値線 (m)



地下水の水位への影響予測結果 (浅層) (2)

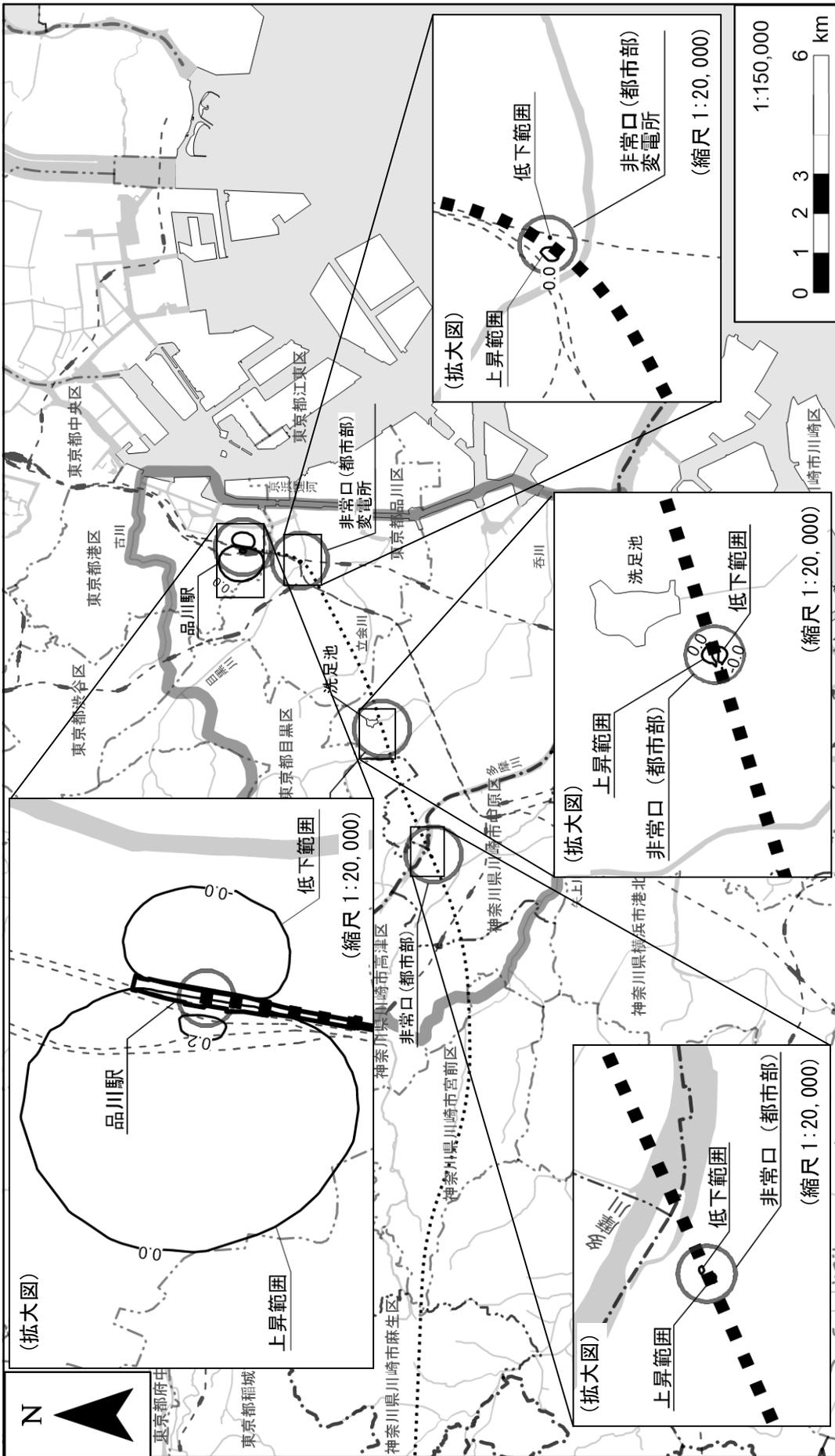
凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 都景境
- 市区町村境
- 解析範囲
- 地下水差等値線 (m)



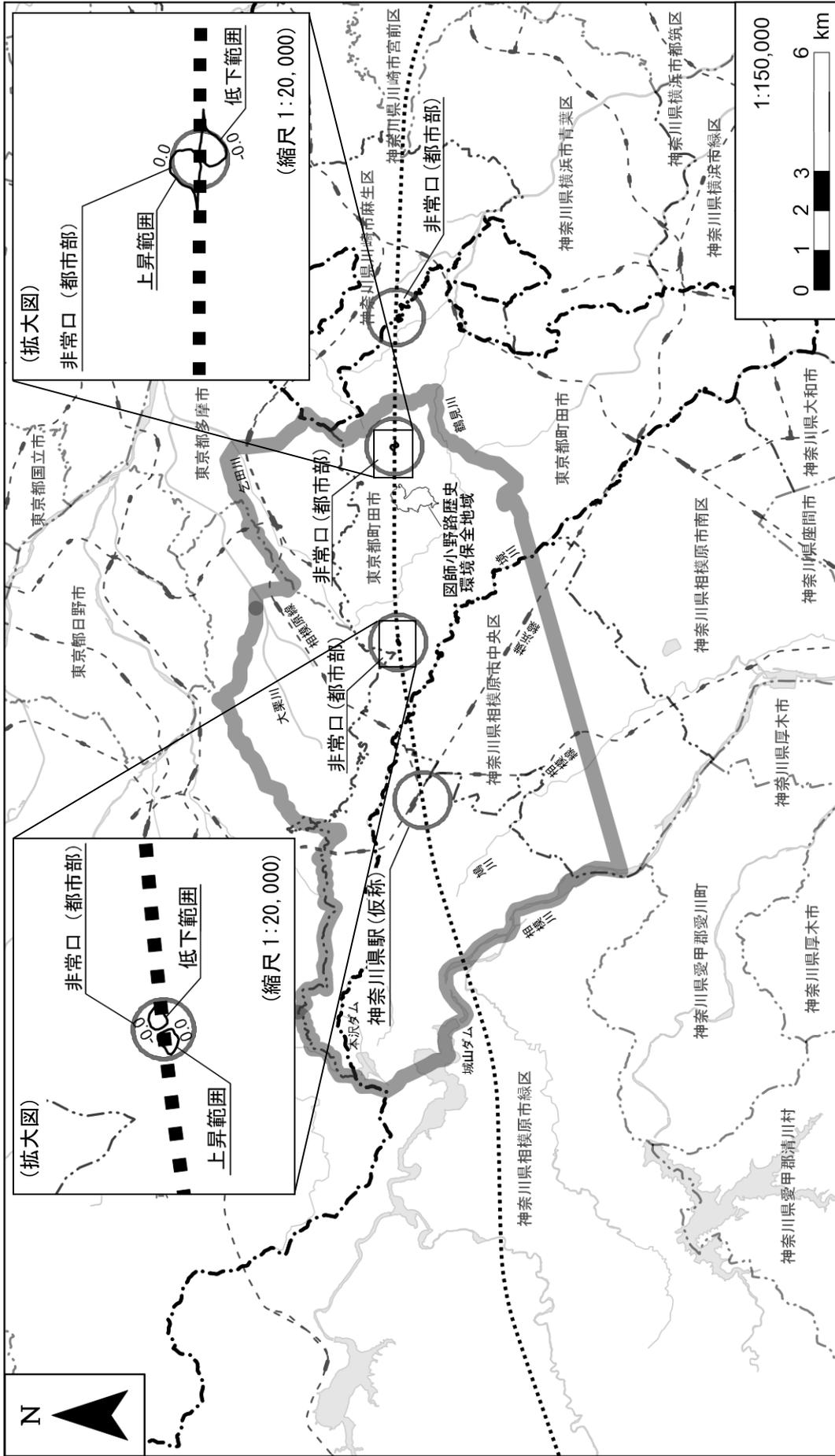
地下水の水位への影響予測結果（浅層）（3）

- 凡例
- 計画路線(トンネル部)
 - 県境
 - 市区町村境
 - 解析範囲
 - 地下水位差等値線 (m)



地下水の水位への影響予測結果（深層）（1）

- 凡例
- 計画路線(トンネル部)
 - - - 都県境
 - · - 市区町村境
 - 解析範囲
 - 地下水位差等値線 (m)



地下水の水位への影響予測結果 (深層) (2)

地下水の流動阻害に係る事業特性・地域特性

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
<p>本事業の事業特性は以下のとおりである。</p> <p>1. 起点及び終点 起点 東京都港区 終点 愛知県名古屋市 主要な経過地 甲府市附近、赤石山脈（南アルプス）中南部</p> <p>2. 走行方式 超電導磁気浮上方式</p> <p>3. 最高設計速度 505 キロメートル／時</p> <p>4. 路線計画 起点の東京都から名古屋市まで、超電導リニアの超高速性を踏まえ、できる限り短い距離で結ぶことを基本とする。 首都圏及び中部圏の都市部では、大深度地下を使用できる地域において、できる限り大深度地下を使用する。</p> <p>5. 設備計画 首都圏及び中部圏の都市部は主に地下式（シールドトンネル）とする。またトンネル内の換気及び異常時の避難等の観点から、換気設備を設置した非常口を概ね 5km 間隔で設置する。</p> <p>6. 鉄道施設（換気施設） トンネル内を換気するため、鉄道施設（換気施設）の設置を計画している。</p> <p>7. 工事概要 工事内容は今後具体化することとなるが、現段階においては概ね以下の通りである。</p> <p>①トンネル部 都市部の大深度トンネル部では、主にシールド工法を採用する。</p> <p>②非常口 都市部の非常口については、地中連続壁又はケーソン工法を、地表の状況及び深度に応じて選定したうえで掘り進めていく。工事の実施にあたっては、非常口の工事箇所工事施工ヤードを設置する。また、既存の主要な幹線道路等を資材や機材の運搬道路として利用する。</p>	<p>本事業区域及びその周囲の地域特性は以下のとおりである。</p> <p>1. 自然的条件</p> <p>①水象の状況 （首都圏） 調査対象地域には公園等において利用されている湧水が点在する。 （中部圏） 調査対象地域には親水広場等において利用されている湧水が存在する。</p> <p>②地下水の状況 （首都圏） 調査対象地域の地下水は、主に東京礫層、上総層群の砂層に帯水している。本事業区域周辺における被圧地下水位は東京都区部で T.P. -5.27m～+19.71m、川崎市で T.P. +6.04m～+57.65m、町田市で T.P. +53.25m～+141.65m、相模原市で T.P. +112.13m～117.77m となっており、西高東低の水位分布を示している。 （中部圏） 調査対象地域の地下水は、春日井市においては主に東海層群矢田川累層、名古屋市においては主に海部弥富累層第二礫層・第三礫層に帯水している。本事業区域周辺における被圧地下水位は春日井市で T.P. +6.35m～+190.14m、名古屋市で T.P. -1.96m～+3.08m となっており、北高南低の水位分布を示している。</p> <p>③地形の状況 （首都圏） 東京都区部においては武蔵野台地が中小河川によりいくつか区分された台地部、多摩川等により形成された沖積平野である低地が見られる。また、川崎市及び町田市は概ね多摩丘陵の南方に位置し、丘陵地のほか鶴見川等の河川によって形成された谷地低地が分布している。 （中部圏） 春日井市北部に丘陵地や台地が分布する一方、内津川付近には扇状地性低地が、庄内川、矢田川付近には三角州性低地が分布している。</p>

地下水の流動阻害に係る事業特性・地域特性

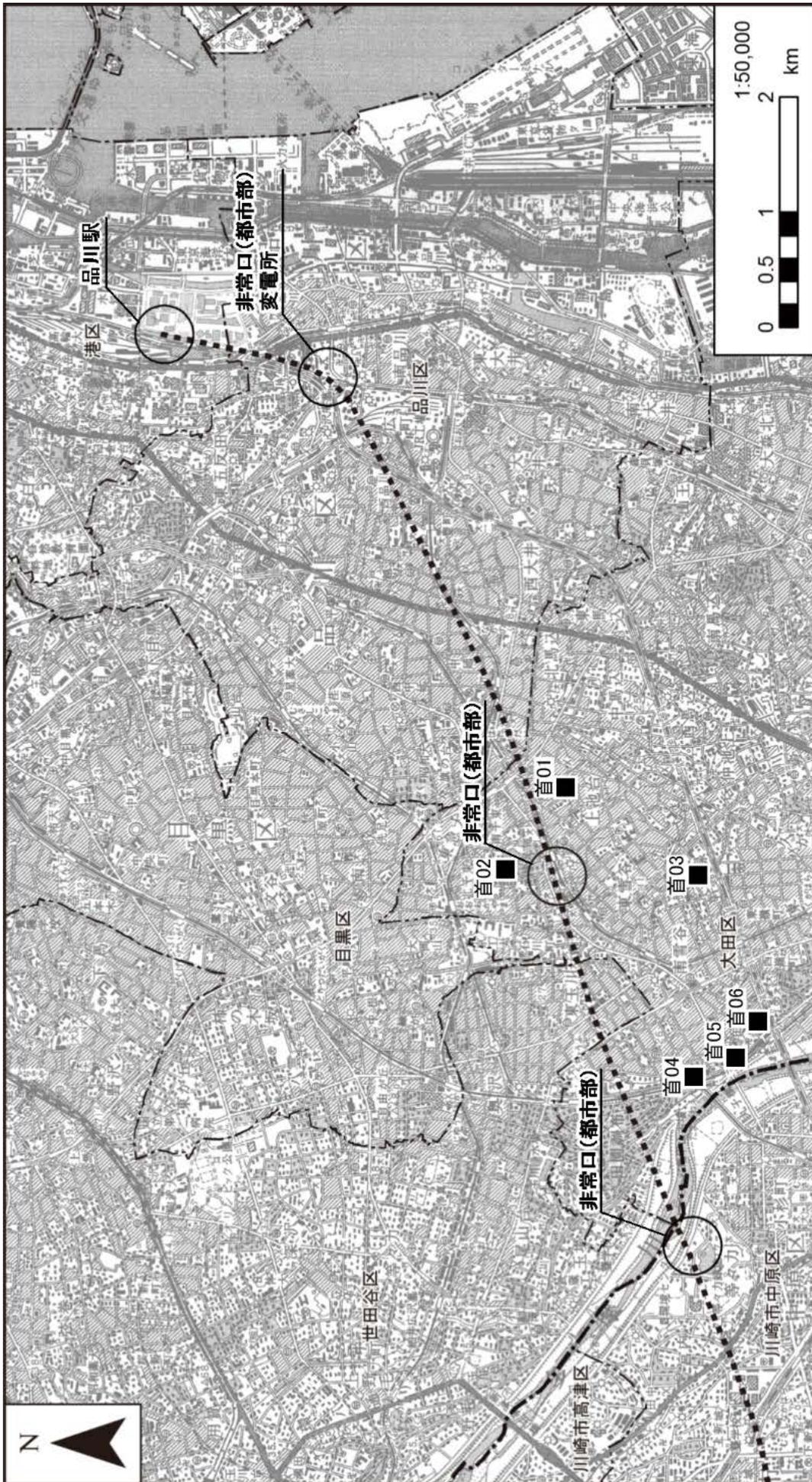
当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
<p>本事業の建設に伴う掘削工事、トンネル工事の実施により地下水流動等の変化を生じることが考えられる。</p>	<p>④地質の状況 (首都圏) 東京都区部においてはトンネルを計画する上総層群とこれを覆う東京礫層、東京層、沖積層等から成っている。また、川崎市及び町田市においては上総層群とこれを覆う段丘礫層及び関東ローム層から成っている。 (中部圏) 第三紀に生成されトンネルの大半を計画する東海層群と、これを覆う海部・弥富累層、熱田層等から成っている。</p> <p>⑤重要な地形及び地質の状況 (首都圏) 町田市において東京都が指定する図師小野路歴史環境保全地域が分布しているが、この地域はトンネルで通過し、地形を改変することはない。 (中部圏) 調査対象地域には重要な地形及び地質は存在しない。</p> <p>2. 社会的状況 ①土地利用の状況 (首都圏) 調査対象地域は「都市計画法」に基づく用途地域の指定がなされており、主に住居地域となっている。その他に公共施設、商業施設、工場、農地等が分布している。 (中部圏) 調査対象地域は春日井市の一部を除いて「都市計画法」に基づく用途地域の指定がなされており、主に住居地域となっている。その他に公共施設、商業施設、工場、農地等が分布している。</p> <p>②地下水利用の状況 (首都圏) 調査対象地域における地下水利用について、東京都区部においては指定作業場での利用が、川崎市においては水道用や工業用としての利用が、町田市においては上水道等としての利用が多くなっている。 (中部圏) 調査対象地域における地下水利用については、水道用としての利用が多くなっている。また、調査対象地域には、水道用水源井戸等が分布している。</p>

地下水（地下水の水質）に係る事業特性・地域特性

当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
<p>本事業の事業特性は以下のとおりである。</p> <p>1. 起点及び終点 起点 東京都港区 終点 愛知県名古屋市中区 主要な経過地 甲府市附近、赤石山脈（南アルプス中南部）</p> <p>2. 走行方式 超電導磁気浮上方式</p> <p>3. 最高設計速度 505 キロメートル／時</p> <p>4. 路線計画 起点の東京都から名古屋市まで、超電導リニアの超高速性を踏まえ、できる限り短い距離で結ぶことを基本とする。 首都圏及び中部圏の都市部では、大深度地下を使用できる地域において、できる限り大深度地下を使用する。</p> <p>5. 設備計画 首都圏及び中部圏の都市部は主に地下式（シールドトンネル）とする。またトンネル内の換気及び異常時の避難等の観点から、換気設備を設置した非常口を概ね 5 km 間隔で設置する。</p> <p>6. 鉄道施設（換気施設） トンネル内を換気するため、鉄道施設（換気施設）の設置を計画している。</p> <p>7. 工事概要 工事内容は今後具体化することとなるが、現段階においては概ね以下の通りである。</p> <p>①トンネル部 都市部の大深度トンネル部では、主にシールド工法を採用する。</p> <p>②非常口 都市部の非常口については、地中連続壁又はケーソン工法を、地表の状況及び深度に応じて選定したうえで掘り進めていく。工事の実施にあたっては、非常口の工事箇所工事施工ヤードを設置する。また、既存の主要な幹線道路等を資材や機材の運搬道路として利用する。</p>	<p>本事業区域及びその周囲の地域特性は以下のとおりである。</p> <p>1. 自然的条件</p> <p>①水象の状況 （首都圏） 調査対象地域には公園等において利用されている湧水が点在する。 （中部圏） 調査対象地域には親水広場等において利用されている湧水が存在する。</p> <p>②地下水の状況 （首都圏） 調査対象地域の地下水は、主に東京礫層、上総層群の砂層に帯水している。本事業区域周辺における被圧地下水位は東京都区部で T.P. -5.27m～+19.71m、川崎市で T.P. +6.04m～+57.65m、町田市で T.P. +53.25m～+141.65m、相模原市で T.P. +112.13m～117.77m となっており、西高東低の水位分布を示している。 （中部圏） 調査対象地域の地下水は、春日井市においては主に東海層群矢田川累層、名古屋市においては主に海部弥富累層第二礫層・第三礫層に帯水している。本事業区域周辺における被圧地下水位は春日井市で T.P. +6.35m～+190.14m、名古屋市で T.P. -1.96m～+3.08m となっており、北高南低の水位分布を示している。</p> <p>③地形の状況 （首都圏） 東京都区部においては武蔵野台地が中小河川によりいくつかに区分された台地部、多摩川等により形成された沖積平野である低地が見られる。また、川崎市及び町田市は概ね多摩丘陵の南方に位置し、丘陵地のほか鶴見川等の河川によって形成された谷地低地が分布している。 （中部圏） 春日井市北部に丘陵地や台地が分布する一方、内津川付近には扇状地性低地が、庄内川、矢田川付近には三角州性低地が分布している。</p>

地下水（地下水の水質）に係る事業特性・地域特性

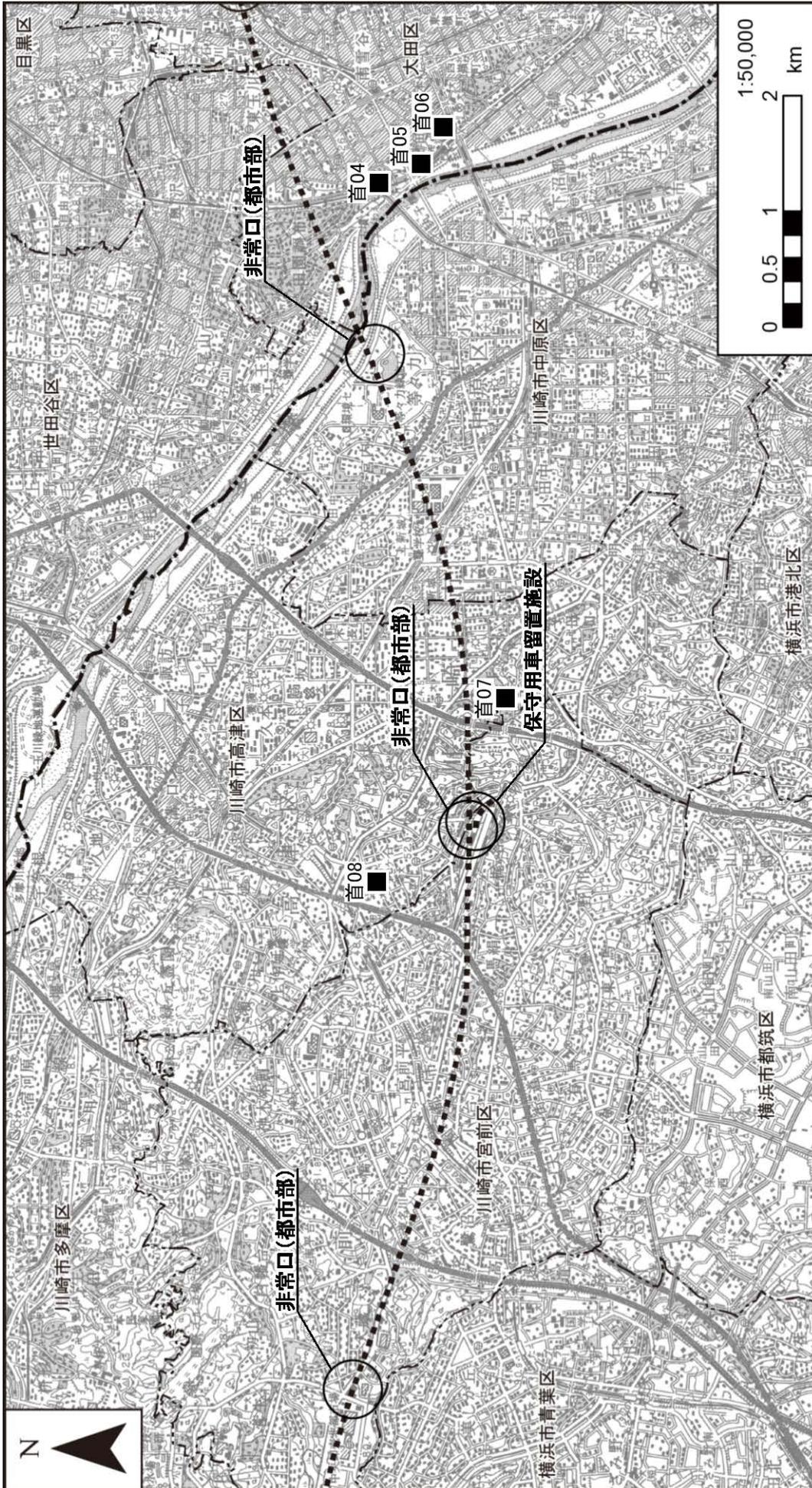
当該項目に関連する事業特性	当該項目に関連する地域特性
<p>本事業の建設に伴う掘削工事、トンネル工事の実施により地下水流動等の変化を生じることが考えられる。</p>	<p>④地質の状況 （首都圏） 東京都区部においてはトンネルを計画する上総層群とこれを覆う東京礫層、東京層、沖積層等から成っている。また、川崎市及び町田市においては上総層群とこれを覆う段丘礫層及び関東ローム層から成っている。 （中部圏） 第三紀に生成されトンネルの大半を計画する東海層群と、これを覆う海部・弥富累層、熱田層等から成っている。</p> <p>⑤重要な地形及び地質の状況 （首都圏） 町田市において東京都が指定する図師小野路歴史環境保全地域が分布しているが、この地域はトンネルで通過し、地形を改変することはない。 （中部圏） 調査対象地域には重要な地形及び地質は存在しない。</p> <p>2. 社会的状況 ①土地利用の状況 （首都圏） 調査対象地域は「都市計画法」に基づく用途地域の指定がなされており、主に住居地域となっている。その他に公共施設、商業施設、工場、農地等が分布している。 （中部圏） 調査対象地域は春日井市の一部を除いて「都市計画法」に基づく用途地域の指定がなされており、主に住居地域となっている。その他に公共施設、商業施設、工場、農地等が分布している。</p> <p>②地下水利用の状況 （首都圏） 調査対象地域における地下水利用について、東京都区部においては指定作業場での利用が、川崎市においては水道用や工業用としての利用が、町田市においては上水道等としての利用が多くなっている。 （中部圏） 調査対象地域における地下水利用については、水道用としての利用が多くなっている。また、調査対象地域には、水道用水源井戸等が分布している。</p>



凡例

- 計画路線(トンネル部)
- 水質及び水量(湧水)
- 都県境
- 市区町村境

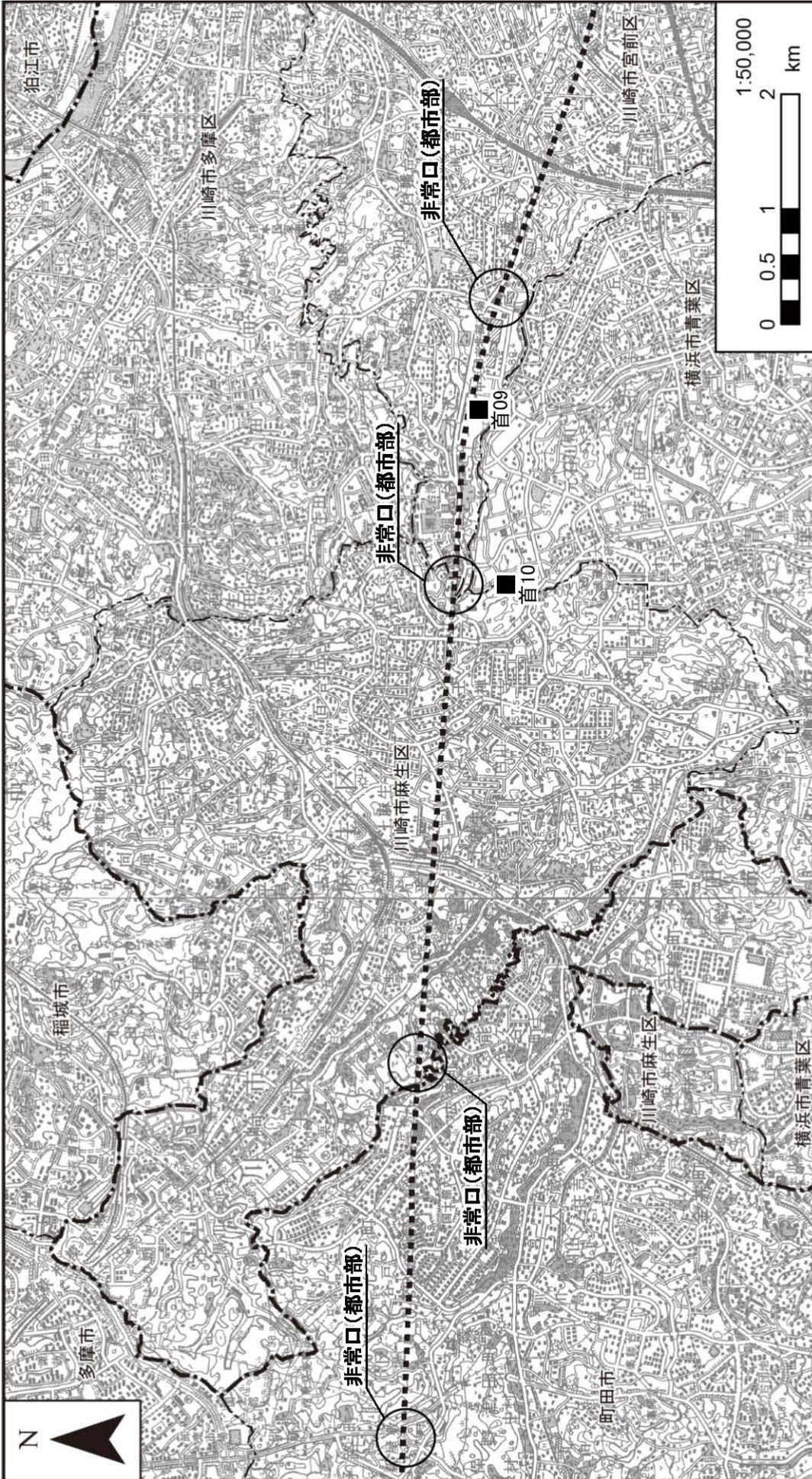
湧水調査の位置(1)



凡例

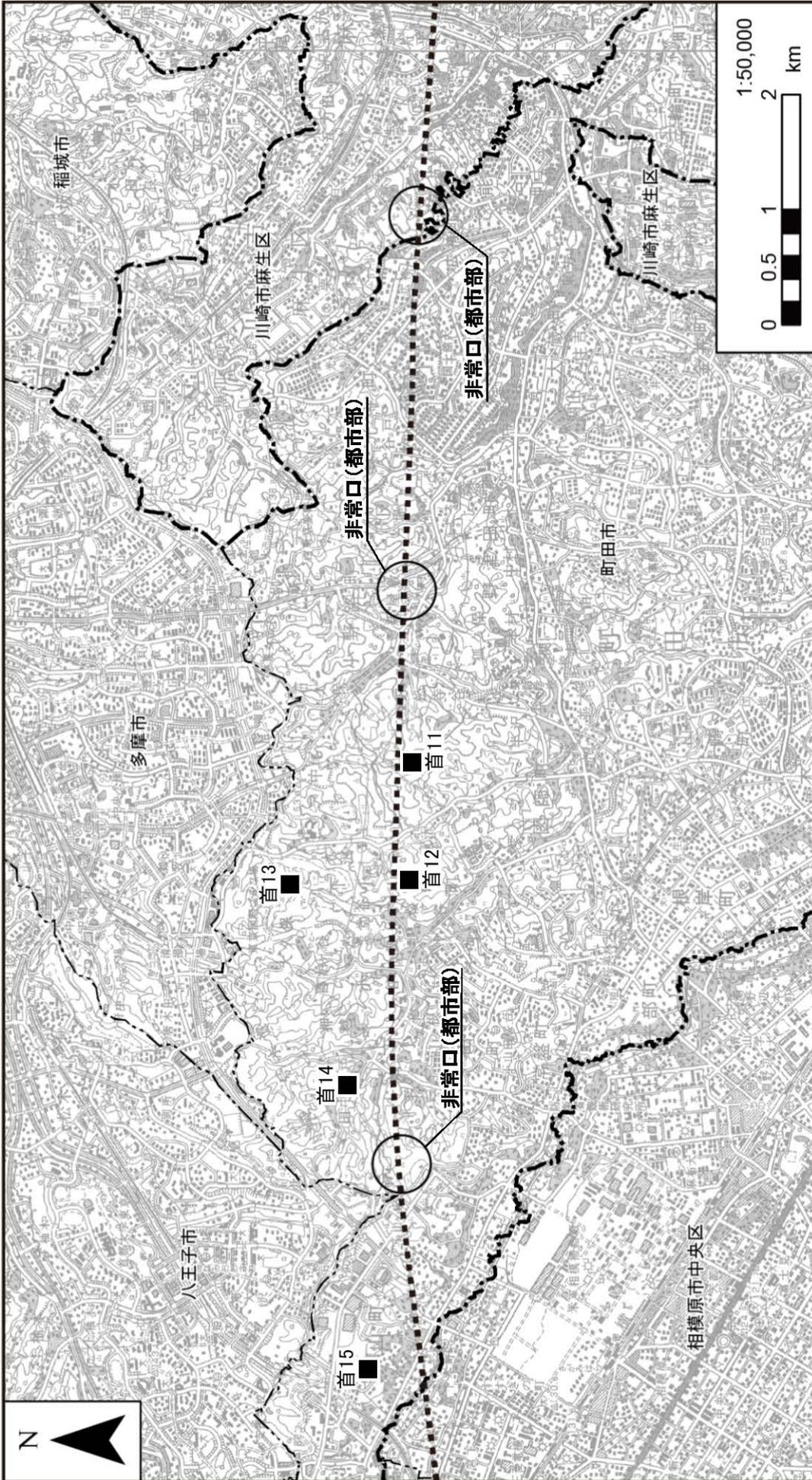
- 計画路線(トンネル部)
- 都県境
- 市区町村境
- 水質及び水量(湧水)

湧水調査の位置(2)



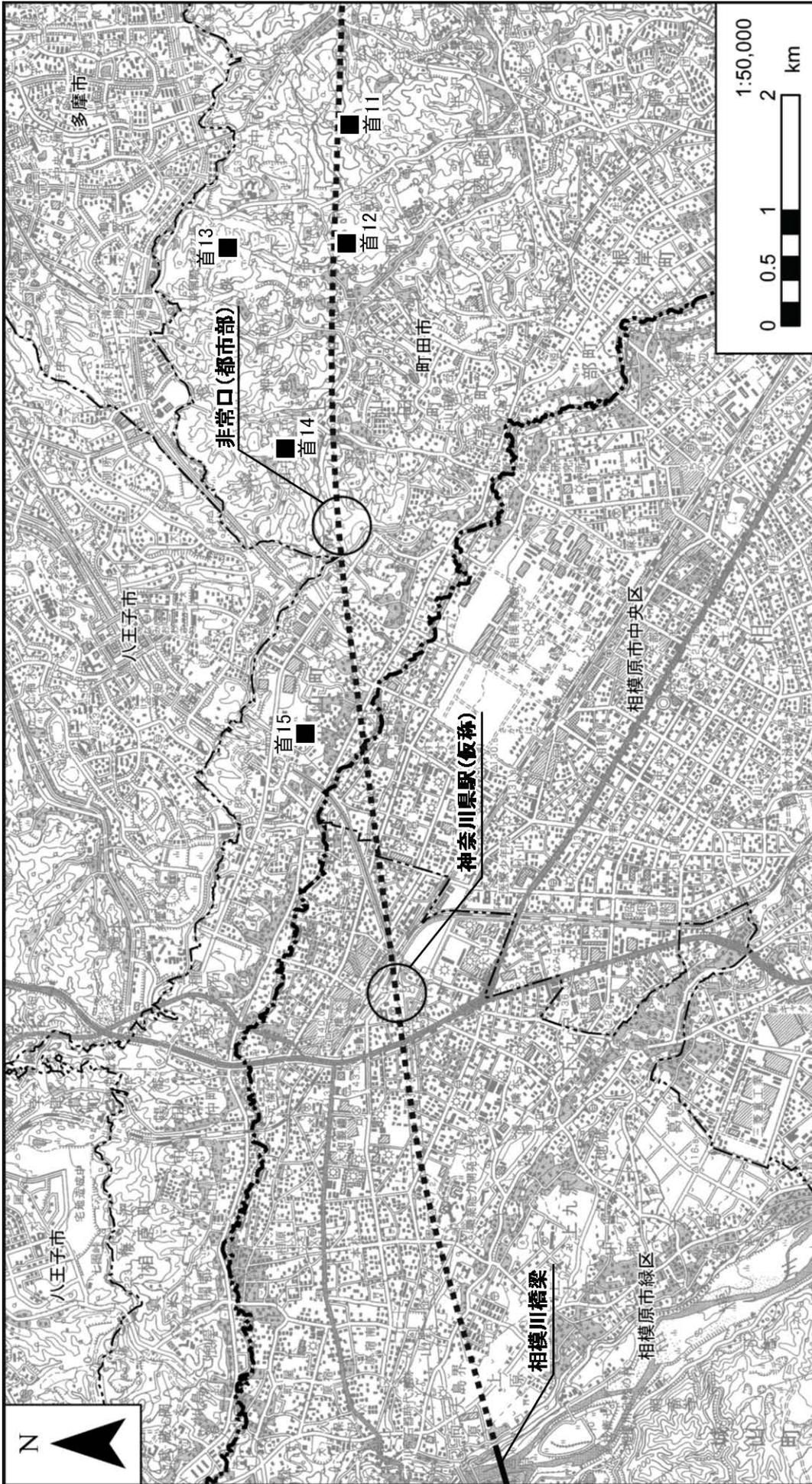
湧水調査の位置 (3)

- 凡例
- 計画路線(トンネル部)
 - 水質及び水量(湧水)
 - 都県境
 - 市区町村境



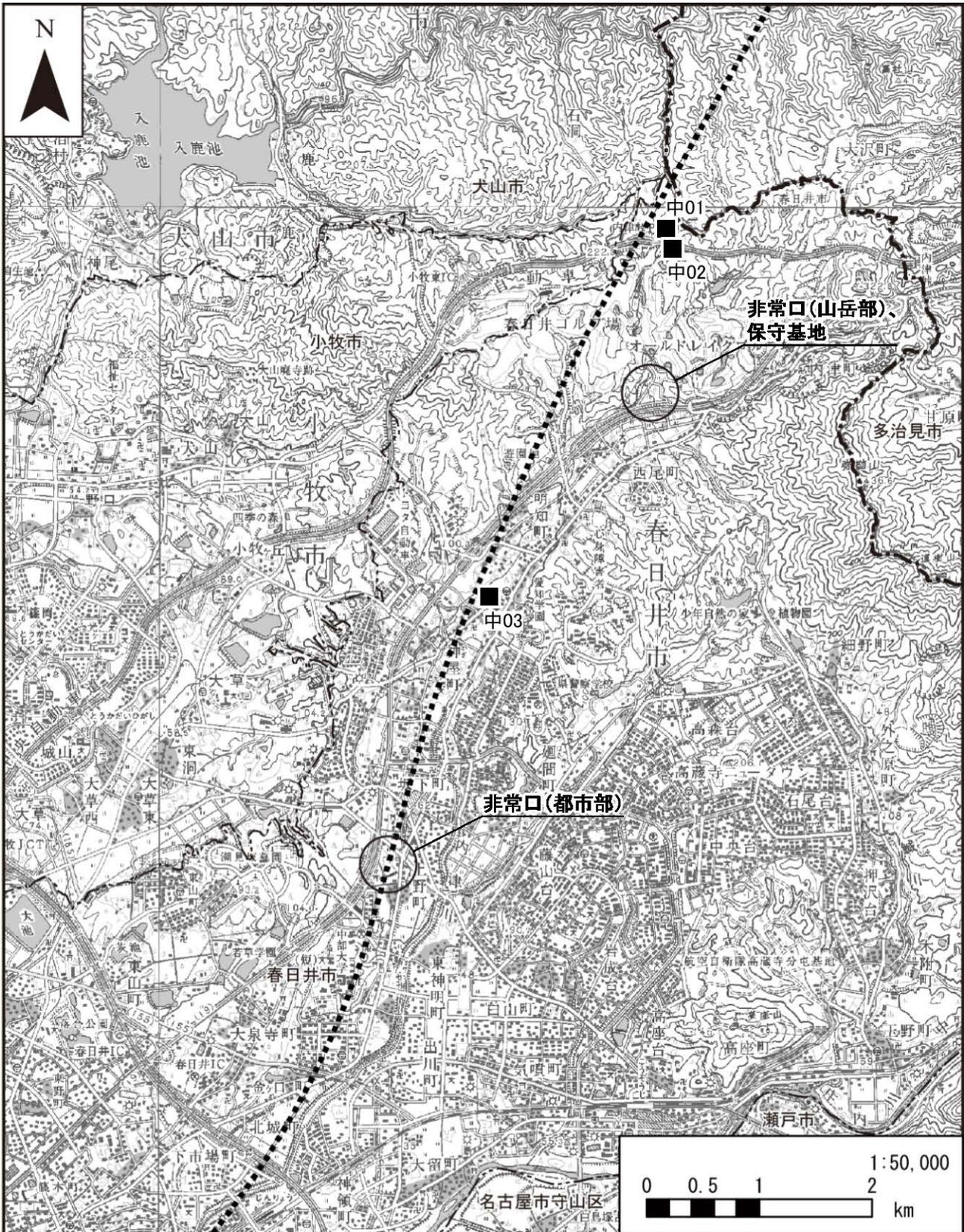
湧水調査の位置 (4)

- 凡例
- 計画路線(トンネル部)
 - 水質及び水量(湧水)
 - 都県境
 - 市区町村境



湧水調査の位置 (5)

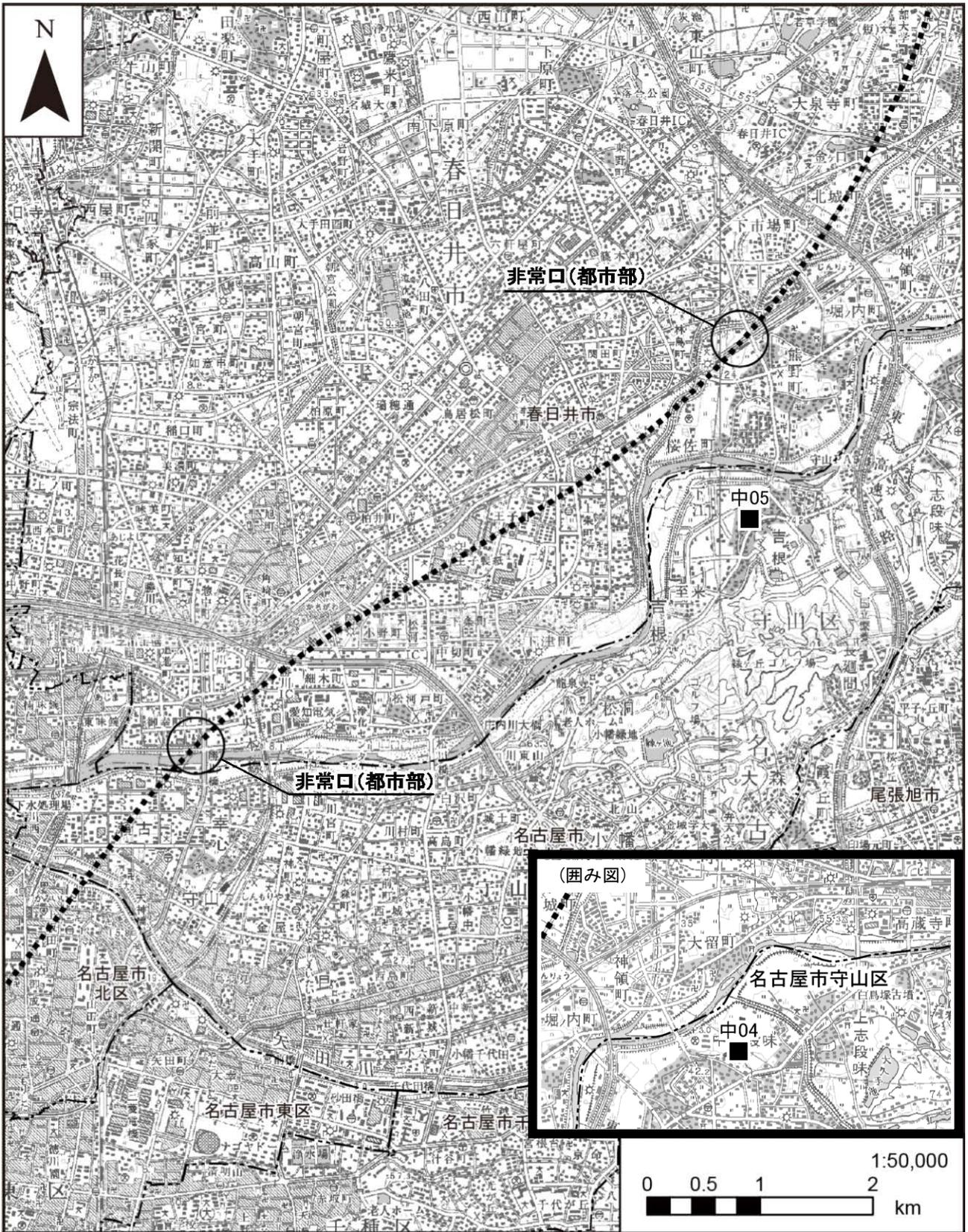
- 凡例
- 計画路線(トンネル部)
 - 都県境
 - 市区町村境
 - 水質及び水量(湧水)



凡例

- 計画路線(トンネル部) ■ 水質及び水量(湧水)
- - - 県境
- - - 市区町村境

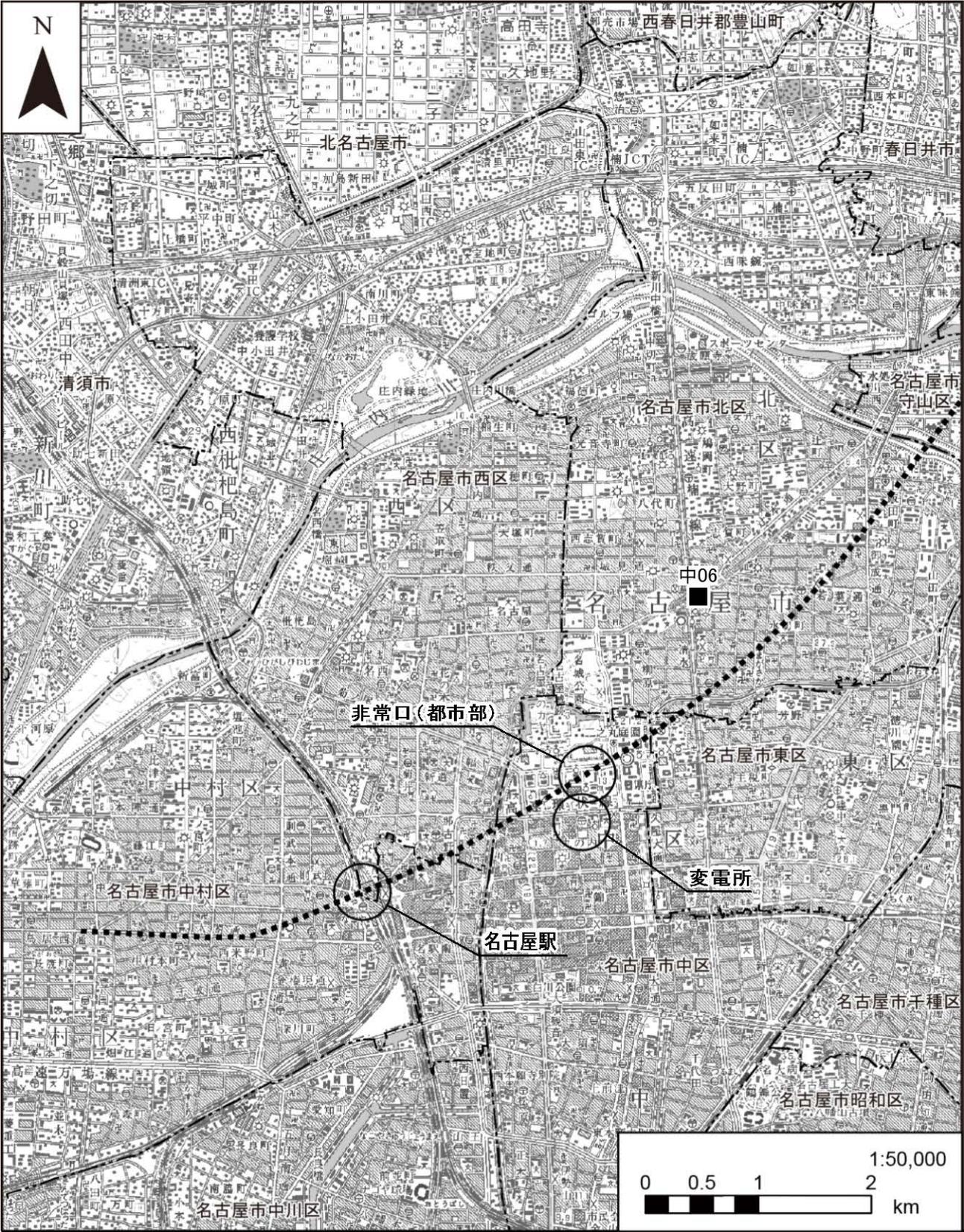
湧水調査の位置 (6)



凡例

- 計画路線(トンネル部) ■ 水質及び水量(湧水)
- 県境
- 市区町村境

湧水調査の位置 (7)



凡例

- 計画路線(トンネル部) ■ 水質及び水量 (湧水)
- 県境
- - - 市区町村境

湧水調査の位置 (8)